

愛媛大学教育学部

第 118 号

同窓会報

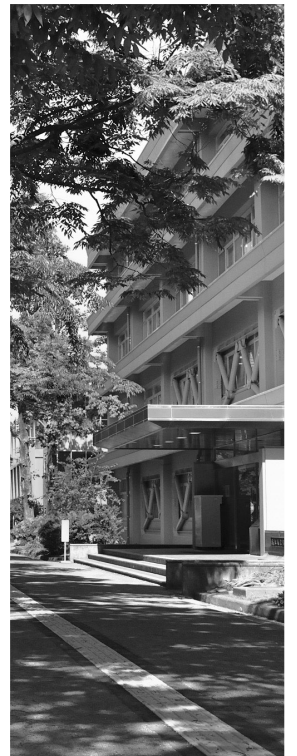


愛媛大学教育学部同窓会事務局

☎ 790-8577 松山市文京町3番
愛媛大学教育学部総務係室内

☎ (089)927-9383(直通) FAX(089)927-8304

E-mail : dosokai@ed.ehime-u.ac.jp



ご挨拶



高橋 治郎

愛媛大学教育学部
同窓会会長

同窓会の皆様、お変わりございませんでしょうか。お元氣にご活躍のことと拝察いたします。常日頃、様々な形で同窓会の活動や運営にご協力、ご支援いただき本当にありがとうございます。今後とも変わらぬご支援よろしく願っています。常任理事や理事、各支部の正副支部長が、同窓生のご要望に沿うように同窓会の運営に当たっていますが、基本は同窓生にとって意義のある同窓会活動をおこなうことだと考えております。今年度、様々な卒業年度の同窓生から同窓会のあり方等をおたずねする会を開催いたします。様々なご意見をいただければと考えています。

さて、この三月に卒業生・修了生が巣立ってゆき、四月には学部・大学院に新入生を迎えます。

した。一年一年の積み重ねはすごいもので、今年度は愛媛大学が発足してから六十五年目に当たります。私たちの教育学部も六十五年の歴史を持つことになりました。もちろん、教育学部の前身は明治九年（一八七六）に創設された愛媛県師範学校にあり、これから数えると百三十八年ということになります。歴史の重さを感じます。再来年（二〇一六）の同窓会懇親会は、愛媛県師範学校創立百四十年のお祝いも含めて開催しましょう。

愛媛大学は、昭和二十四年（一九四九）に新制大学として発足しました。同年三月十八日付の「愛媛新聞」一面トップに「愛媛大学認可される 国立大学審査結果 きよう正式発表」、「外来二十教授決る」などの見出しで大きく報じられています。教育学部に來られた教授は、教育心理の三好稔、英語の伊形徳一、数学教育法の戸田清、理科教育総論の佐久間澄、家政の藤村吉之助、の五名の先生方です。残念ながら昭和二十四年生まれの私は、この五人の先生を存じ上げません。

私が、愛媛大学を知ったのは多分、小学六年生だった昭和三十六

（一九六一）年十月の愛媛大学の火事からだと思っています。「愛媛新聞」の十月三十日付の夕刊が、この日の午前零時四十分頃に発生した火事を「愛媛大学焼ける」、「本部と教室一むね（教育学部）会計室付近から出火」、「重要書類持ち出せず」、「気づいた時は火の海」、「付属中の答案消失」の見出しで報じています。私の実家がある町には学校の先生がたくさんいたので「卒業生名簿が焼けたので、愛媛大学から問い合わせがあった」という話をよく聞きました。また、当時、学テ（懐かしい言葉です）日本一になるべく日々特訓を受けていた私たち田舎の子どもたちは、数日前に終わった学テの「附属中の答案が焼けて無くなったので、愛媛の平均点が下がる」と言われても何のことかわかりませんでした。とにかく、この火事のおかげで、松山に愛媛大学や附属学校のあることを知ったというわけです。

話が脱線してしまいました。が、とにかく、愛媛大学教育学部は今年、創立六十五周年を迎えます。ちょうど今年、二年に一回開催している同窓会懇親会の開かれる年でもあります。懇親会は八月二十三日土曜日に開催されます。是非、ご出席され、愛媛大学の、そして教育学部の建物を含めた変わり様を見ていただき、青春時代の教育学部と比べていただけたらと思います。さらに、道後温泉本館の改築落成が明治二十七年（一九〇四）年四月十日ですので、今年、百二十年という節目の年に

当たっています。ちなみに翌年の明治二十八年（一九〇五）に夏目漱石が愛媛県尋常中学校に赴任してきています。そして、彼は小説「坊っちゃん」で主人公坊っちゃんに「ほかの所は何を見ても東京の足元にも及ばないが温泉だけは立派なものだ」と語らせています。また、この小説の後半に中学生と師範生のケンカの場面がありますが、フィクションとはいえ、私たちの大先輩が登場することに何か親しみを覚えます。

この親しみこそ、同窓という絆であると思います。同窓生を時間という縦軸と同級生という横軸で繋ぎ、青春を謳歌した母校をより立て、後輩のがんばりを支える組織が同窓会だと私は考えています。同窓会は、入学時に納めた同窓会費で運営されています。現在、連絡の取れない同窓生がたくさんいます。住所変更は速やかに届けていただき、同窓会と連絡が取れるようにしておいてほしいと思います。人生の中で一番思い出深い大学時代の話は、同級生やサークル仲間といつ語らつても尽きることなく楽しいものです。

その一方、私たち同窓生が地域の文化財を発掘し、地域の文化活動をリードしてゆかねばなりません。愛媛の地に大学が欲しいという願いは、地域文化の向上を期待することです。それが叶って六十五年、大勢の会員を有する教育学部同窓会が地域貢献に役立つ存在でありたいと思います。どうぞよろしく願います。

目次

表紙

「懐郷」…………… 渡邊 裕公
題字 元愛大教育学部教授 菊川 國夫

「ご挨拶」…………… (1)

心響

教育学部同窓会会長 高橋 治郎
「消えた風景」…………… (2)

学部の今

研究室訪問 英語教育科研究室 石丸 淳
「池野 修先生 今日日は」…………… (3)

「魅力的な話し方講座」(四)…………… (5)

学部トピックス…………… (9)

「初任研の一年間を終えて」…………… (11)

「遠回り人生」…………… 鎌倉 慶

「教師としてはたらくこと」…………… 河口麻衣子

「子どもたちの無限大のエネルギー」…………… 本 真理奈

「前進」…………… 近藤友香里

「多くの出会いに感謝して」…………… 武智 真理

伊予郡・砥部中教諭…………… 丹下 友和

川 柳「子の育て」…………… (17)

「表紙作品「懐郷」について」…………… 渡邊 裕公

「初任研の一年間を終えて」…………… 大西 哲矢

「西条市・吉井小教諭」…………… 西条市・吉井小教諭

「今治市・波方小教諭」…………… 今治市・波方小教諭

「愛大附属小教諭」…………… 愛大附属小教諭



消えた風景

石丸 淳

(昭三六卒)

人間成長の核は何だろうと思うことがある。

詩 おとうちゃん、ありがとう

中二 咲紀

もう薄暗くなりかけた田圃道
父とふたり

車を押しながら黙って歩く
すると、きゅうに

「洋子、車に乗れや」と言った
車に揺られていると言う

「今日は宿題あるんかいや」
「ううん、ちよつと英語があるだ
け」

「帰ったら早いとこせいや」
仕事しながらもわたしのことを
考えてくれている父

私も、大きくなったら
うんと父の力になってあげる
こんな静かな夕暮れの道では
いつそうそうしてあげたい

—*—

わたしたちの子供時代には日本
全国にあった風景である。何とい
うこともない風景であるが、繰り
返し読んでみると、じーんと浮か
び上がってくるものがある。
ここには実に豊かなものがある

る。

①家族と共に生産している

車は大八車、リヤカーである。

咲紀も一人一役を背負い家族の
役に立っている。そのことを本人
も家族もしっかりと認識してい
る。

咲紀の占める位置が家族の中に
揺らぐことなく存在している。確
かな属感であり、何の不安もない。
家族と共にかく汗くらしい嬉しいも
のではない。

②自然な思いやりが生まれる

労働後の解放感、そこでの父と
子の対話は自然に温かい思いやり
になる。「車に乗れや」「宿題ある
んかいや」という父である。短い
言葉であるが素朴な愛情に溢れて
いる。咲紀の言葉も心も素直にな
る。

「ちよつと」に込めた思いやり
のなんと大きいことか。

③自然に家族への感謝となる

いつも我が子のことを考えてい
る父である。それが、共同作業や
こんな道中の触れ合いの場で咲紀
に実感できるのである。認め承認
された存在であるということが、
おとうさん、ありがとうと言う胸
の中の感謝の言葉となつて自然に
発露し結実するのである。

④夢、願いが生まれる

大きくなったら、うんと父の力
になつてあげたい、何と父にとつ
て嬉しい言葉である。父だけで
はない、咲紀にとつても大きい力
を生む言葉である。父や家の苦勞
を知っており、それに負けず生き
ている姿を見ているから、がんば
ろうと思うのである。この願いは
咲紀の生きるエネルギーである。
子は父から、父もまた子から生
きる力をもらっているのである。

⑤時間軸、空間軸を感じる

種から実までの過程に欠くこと
の出来ぬものを物心両面で感じ学
んでいく。虫や蝶、蜂の働き、病
害虫、天候等の意味を知り、収穫
の喜びや生長の神秘を知る。ここ
に、時間・空間軸の中に身を置く
自分をおぼろげながらもだが実感
できているだろう。

⑥満たされた愛の世界がある

静かなたんぼ道、でも寂しくは
ない。作業後の充実感と親子の情
愛が大自然の優しさとともにあ
る。ミレールの晩鐘の絵のような満
たされた静謐がある。
親子を包む夕べの風の匂いがす
るようである。
ここにはイライラ、ムカツキと
いった疎外感がない。

日本の原情景といつてもいい、
親子・家族が一緒に勤勞する姿
は、今、どこにも存在しないと
いつていいだろう。田圃、畑に入
り、小中学生が親と共に働いてい
る光景はない。

あなたの近所に田畑があれば見
詰めてみたい。そこで、作業して
いる者はだれか。

農村風景だけでは無い。町工場
や漁村といった自営業においても
かつてのように手伝いし作業する
子供たちの姿を見かけることがほ
とんどない。

だが、消滅している訳ではない。
悲観しているだけでもない。

世界技能コンテストという大会
がある。溶接技能、左官技能、お
菓子ケーキ技能といった様々な分
野の職人さんの技能コンテストが
ある。二十幾つの分野で日本は毎
回十七、八個以上の金メダル受賞
という結果を出している。
受賞者が、父親の姿を見て、こ

の仕事を経ようと思った。親父を
尊敬していると生き生きとした顔で
語っている。

古代寺院建築を継承する宮大
工、昔の技法を探る織布、染色の
専門家、古代釘を再現する鍛冶な
ど様々な領域の技能、文化を大切
に残そうと努力し続けている人が
いる。

そこには、目に見えにくい、が、
先の詩の大八車を引く親子のよう
な深い交流が生きているだろう。
農業風景もやがて必ず新しい時
代にそつた姿に変化するであろ
う。

では、学校教育はどうあればい
いのだろうか。

①田植え、稲刈り、餅つき？

全日本の小学校で行われている
が、地域、郷土に他にないか。

②単発行事でいいか？

総合的な創造活動にならないか
と思考を広げ深めた。

③プロが参加できないか？

企業、教委、団体等広く参加す
ることで交流は広がり深まる。お
とうちゃん、ありがとうの世界の
欠如を埋めるものに近付けたい。

④豊饒なかかわりを創る

交流（かかわり）は、命を知る、
情を知り、喜びを知る、共生と感
謝を知る、そして、生き方を考え
ることである。

⑤たつぷりした時間がある？

焦つてはならない、怠けてはな
らない。丁寧でなければならぬ。

学ぶことも教えることも交流で
ある。貧しい関わりに生きてきた
子供にとつて、一本の木切れは木
切れでしかないが、豊かな交流に
生きてきた子にとつては、一本の
木切れが無限の遊びの材料と化
す。

絵手紙「描き続けたい」 井上 弘子
俳句「晩学のたのしみ」 白石 美子
短歌 平井 直子

先輩を偲ぶ……………(19)

林傳次先生遺稿集「把翠」を繙く(九)

会員の声……………(20)

「平和学習の出前授業に思う」

小野植元幸

「第一回の卒業生から」

松田 建雄

同期会……………(22)

昭和三十三年卒業生同期会

村上 嘉一

愛師昭二十二年卒 東京同期会

平成二十五年十二月の会

武田 敏文

学内最近のニュース……………(24)

・教育学部が今治市教育委員会と連携

協力事業の調印を行いました

・教育学部留学生歓迎会を開催しまし

た

・教育学部の安積京子講師がドイツの

有名バイオリンリストと共演しました

・教育学研究科と教育学部の学生グ

ループが私立久枝幼稚園で藍の絞り染

めを行いました

支部長会報告……………(27)

平成二十六年 役員表……………(29)

叙勲・受賞……………(19)

寄付者・会報送送料送金者名……………(30)

敬 弔……………(30)

原稿募集……………(16)

放送大学入学生募集……………(21)

愛媛大学ホームカミングデー……………(23)

開催のお知らせ……………(23)

愛媛大学と山形大学合同……………(31)

「第四回卒業・修了合同美術展覧会を……………(31)

学部
の
今研究室 訪問 *b c*

英語教育科研究室

池野 修先生 今日

風薫る五月、連休明けの月曜の午後、池野先生の研究室を訪問した。先生は超多忙の毎日を過ごされていて、無理をお願いしての訪問だった。

大学の英語科の地域連携について

私自身のことでお話したいと思います。英語教育講座としての連携は、今十分な活動にはなっていないのですが、学部全体としては例えば、「教材プロフェッショナル講座」の一環として、英語科としても、「教材研究の研修」と言うことで参加しています。これは毎年実施しています。これ以外としては、県の教育委員会と連携して「レベルアップセミナー」も実施しています。私もここ数年参加協力させて頂いております。

「レベルアップセミナー」は県

下の全教職員を対象にしての研修会であり、最近の英語科としては「小学校外国語活動指導者のための講座」を開催し、特に英語の発音についての講座を開いています。開催地区については、県下の東・中・南予と色々移動して行っています。年間一回ぐらいですが、こちらから色々メニューを出して、先生方はその中から希望する講座を選んで参加を決定しています。後は個人的にですが、私と県・市教育委員会とが連絡、連携し合っ

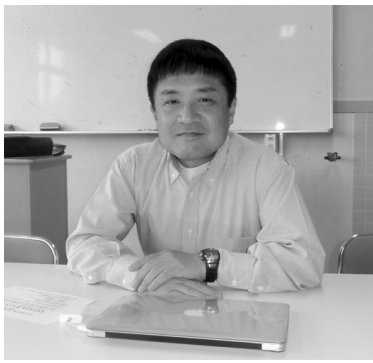
て仕事をしています。

また、県教委からの依頼を受けて「英語コミュニケーション能力養成事業」について、力不足ではありますが、ここ五年間ほど継続的に関わっています。それは、県

下の児童生徒の英語コミュニケーション能力を向上させようというのが狙いであり、東・中・南予でそれぞれ研究指定校を決め、年度によって多少テーマが違いますが、例えば「小中連携」「中学校英語授業研究」、それに関わらせて頂いております。全体ミーティングの際に、講演をしたり、各地区で指定されている学校が授業研究会を開催する際は、その研究の支援とか、出向いていて、そこで講話をしたり、指導助言をしたりすることが多いです。

英語というのは、他教科と比べて、結構動きの激しい教科でもあります。その中でも、小中連携は結構話題になります。特に、この二、三年前は大変話題になりました。

今、小学校の英語教育の方向付



けとして、五、六年生で週一時間程度の指導がはじまり早くも三年になりますが、ある程度定着したのではないかと思います。

学習指導要領実施直前の三年間ぐらいは、外国語活動研修会を実施すると、会場は満杯の盛況で、大変熱気に溢れていました。研究会実施回数自体も大変多かったです。今は安定したのでしょうか、最近の「外国語活動研修会」へ参加する人の数が、最盛期に比べ三分の一程に減少してきています。

長期的に見ると二〇一八年から、また大きな変化が予想されます。それは、今、小学校五・六年生を対象に外国語活動が実施されていますが、それが三年生まで降りてきて、五・六年生になると、外国語が教科として週三時間の授業時間になってくるような、もの凄く大きな変化が起こってくるのではないかと思います。二〇一八年が近づいてくると、また、研修会参加への熱気が再び起こってくるのではないかと今から予想しています。

私としては、小学校もさることながら、中・高等学校における英語教育の充実改善の在り方を最も

深く追求し、さらに改善して頂いてほしいと強く願っています。

ところで、私が、小学校における英語教育授業に参加させて頂いて強く感心することがあります。それは「ああ、小学校はこのようなして指導するのだなあ。」と感心することとして、小学校の先生は教材研究に真摯に取り組んでおり、その時の教材教具の準備、提示、活用が実に上手です。私は、初めは教科担任制でなく学級担任が指導するのだから、上手に指導できるのだらうかと危惧して

いました。しかし、学級担任だからこそ出来るのだというような豊かな発想が沢山見られました。子どもの心をよく知っていて、教科でやっていることもよく知っていて、まさに小学校の先生だからこそ出来るのだと思いました。それは、外国語活動のいい財産になっている、将来的にも残した方がいいと考えました。

様々な研修や授業研究会へ呼んで頂いて、授業を見せて頂くことは、自分にとってよい勉強の場におおいになってきています。過去五、六年のスパンで見ますと、見せて頂いた授業数は三桁にはなる

のではないかと思います。

しかしながら、その時は立場的に、指導助言したり講話をしたりしているのですが、自分自身の方が大いに勉強させて頂いているのが実際であると強く感じています。

「指導助言」で招聘されること
が殆どですが、この「指導助言」のネーミングが私にとっては宜しくないと考えています。

何故かと言いますと、いきなり

外部の人が、ある日突然授業に参加すると言うことです。そうだから、見えるものは極めて限定的です。その授業するクラスにはクラスの風土、歴史があります。そのクラスが抱えている授業の制約があるものです。クラスの人間関係であるとか、時間の制約があるとか、授業は制約の塊でできています。その中へいきなり外部の者が入り込んで、見えないことの方が多いものです。そういう立場でいきなり「指導助言」をして

も、クラスにとっても、児童生徒にとっても「ありがた迷惑」になる以外の何物でも無いです。多分現場の先生方もその様に思っている先生が多いと思います。だから「指導助言」ということではなく

で、公開された授業を起点にして、

それを手掛かりにして「どうやっていい外国語活動や英語の授業を創っていけばいいのか」と言うことを一緒に考えていく。これを意識して授業に関わっていく必要があると私自身強く感じています。

「こうやったらいいよ」と言うような上からの目線での指導は出来ないし、やるべきではないと考えています。

その先生の指導が目指している方向に如何に広げ、深めていくか。「広げる」というのは、他の実践と繋いでいくことですし「今回のこの授業に関連するような実践は他でもこのような形で見せて頂いて、こう言う点は共通でした。けれどこう言う点は違っていて、面白かったですね」とか言う「広げる」と、そして「深める」ということは、行おうとしていることを多少理論的に意味づけをするとかいうことです。

愛媛における英語教育の傾向

英語科は総ての教科指導の中でも研修熱心な面があります。愛媛の英語教師は平均的に研究熱心だと何時も感じています。全体と

してみても、義務的な参加研修で

なくて、私的な研修会であつたり自主参加型の研修会であつたりしても、会へ主体的に参加する先生の数は他の教科よりも多いと感じています。それは、英語という教科は他の教科と比べても「どのように教えるか。HOW TO TEACH」ということについて、

より考えなければならぬからです。それと、変化の激しい教科です。ので、全体的に見れば非常に研究熱心な先生方が多いのです。

同時によく言われることです。が、愛媛県全体の傾向として保守的な傾向があります。変化を嫌う傾向が見られます。英語科はそうでないかもしれませんが、他の県とかが動いているのを見て、行動しなければいけないという時に

なって、やっと初めて動き出す傾向が見られます。だから教育についても斬新な取り組みを他の県に先んじて行うことは少ないのかも知れません。もともと、愛媛県教委では今は、色々と考え、工夫して新しい方向付けをしてきている事業があります。例えば「授業のエキスパート事業」等です。全教科での実施とかは他の県では見当

たりません。

大学での授業においては、私自身学校現場に出て行って学んだ事を、特に教員養成授業において色々指導に生かす事が出来ています。それは、現場の情報とかをふんだんに語って聞かせています。これが相互作用の利点だと実感しています。

間接的な連携としては、学生に学校現場にアシスタントとして行ってもらっています。その一例として「地域連携学習」があります。所謂「学校ボランティア」ということです。その活動の中、松山市の事業である「学習アシスタント」の一環として学生が小学校

に出向き「外国語活動アシスタント」として活動しています。一番の理想は相互利益につながることで、学校側の方も愛媛大の学生が参加して、英会話デモンストレーションを児童の前でする事によって良い動機付けをしたり、アシスタントとして任用された学生にとつても目的が明確になり、その後の学生生活、特に英語科学習の励みにもなっています。

最近、協力校も大変増えて、昨年度は、六十八校、そこで実

施した授業数は、延べ百六十九事業、参加した学生数は、延べ三百八十八名となっています。

これも学校数が関係するのだと思いますが、活用が一番多いのは小学校、次に中学校、そして高校となっています。

ところで、大学側から提供できるのは「教材プロフェッショナル」「レベルアップセミナー」とか「大学内に招いての教員研修」とか、今後、時間的面とかの制約をクリアしながら共同で実施できることを今後も増加させる必要があります。

卒業生への呼びかけ

卒業しても是非気軽に話に来て欲しいです。そして、出来ることなら授業にも参加してもらつて、ゲストティーチャーとして後輩のモチベーションを高めて、どんどん伸ばして欲しいものです。また、協同して愛媛の英語教育の向上を目指していきたいです。

豊富な体験に基づく鋭い英語教育の具体的なお話に時間を忘れて聞き入っていました。

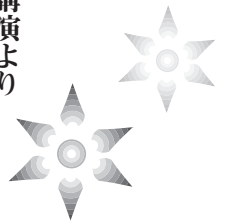
「愛媛大学教育学部サポーター制度」より

「魅力的な話し方講座」(四)

―「コミュニケーション能力のつけ方」―

講師フリーアナウンサー

合田みゆき氏講演より
(平五卒)



こんにちは。元南海放送アナウンサーの合田みゆきです。平成五年に教育学部を卒業し、その年の四月に南海放送にアナウンサーとして入社しました。三年前に退職をして、現在のメディア出演は、月に一回、大体、第四木曜日、夕方のローカルニュース番組「ニュースCH4」の「元気印を探して」という、県内の注目企業を紹介するコーナーを担当しています。そのコーナーでは、打合せ、取材、編集まで、テレビに放送されるまでの過程のほとんどを担当しています。そのほかには、結婚式や式典などの司会の仕事をしています。

南海放送に在籍していた頃は、アナウンサーだけでなく、ラジオディレクターや、報道記者も担当

させてもらいました。カメラを回すこともあったので、現場といわれるものは、全て経験させてもらいました。いろいろさせてもらっているのは、ローカル局のありがたいところだと思います。

さて、きょうは「みせ方」というテーマで、皆さんに参加してもらいながら、進めて行きます。

今回「みせ方」というのをテーマに選んだ理由をお話します。

長女が小学一年生になり、親の立場で学校に参加するようになり



ました。学校からは、授業参観や、子どもたちの発表会などの案内を頂いて、子どもの様子を見に行く機会を多く頂いています。学校の先生は、熱心に子どもたちを指導して下さって、本当にありがたいです。

先日は、子どもたちが自分たちでいろんなことを研究して、まとめて、それを発表するという授業を参観する機会がありました。みんな、班にわかれて、それぞれのテーマを持ち、それについて調べ、そして、発表をしていました。太陽光発電について調べているグループもあれば、竹で作る器の作り方などを発表している班もありました。子どもたちはみんな、内容のある、すごくいい発表をしていたのですが「おしい!!」と思う場面が何回かあったのです。

「あー、こうしたら、その発表がもっと生きてくるのに!」と。あと一工夫すれば、もっと内容が伝わったのではないかとと思うことがあります。

たとえば、

一、子どもが発表している時、その声が小さくて聞き取りにくい。

二、何ページかにわたってクイズを作っていたが、みんなに見せる紙が小さく、また、順番があつちいつたりこつちいつたりしていて、本人たちが手間取っている。

三、説明の絵を見せているが、その絵の原稿は別のところにあるので、視線が前を向いていない。などです。もう少し、見せ方の工夫をすれば、もっと説得力のあるものになるのに、おしい!!と思う発表でした。



では、それぞれ、どう工夫したらよかったでしょうか?

一、大きい声で発表すれば良かった。

二、クイズの紙は、本をめくるように、順番にしておいた方が良かった。

三、絵の裏に原稿を貼り付けておけば、視線は前のままでよかった。こうして、事前に、一工夫しておくだけで、断然、発表がスマートになります。

きょうは、良く「みせる」ためには、どうすればいいのかを、お話ししていきます。実践が主ですので、恥ずかしがらずに、どんどん参加してください。



魅力的な話し方講座

2013年12月5日 講師 合田みゆき

【みせ方】

今回の講座のテーマは「みせ方」

1. 自分の魅せ方
2. 物の魅せ方



1. 自分をよりよく魅せる3つのアイテム

- ・声
- ・表情（笑顔）
- ・所作（立ち姿）

2. 物の魅せ方

- ・常に相手にどう見えているか考える

<<声・表情・所作の基本課題>>

【発声練習】

- ・ロングトーン（大きくて、丸みのある声を出す）
- ・五十音（母音の口の形を意識して）
- ・鼻濁音（「が行」を鼻にかけた発音に）
- ・無声化（「す」の音をスマートに）

【笑顔練習】

★笑顔の作り方

→ 口角を少し上げ、目じりを下げる感じ

【立ち姿】

★立ち姿

- ・足を揃える。男性はかかとを付けて。女性はTの字
- ・胸を張る
- ・あごは引く。
- ・腕は軽く下

魅力的な話し方講座 2013

今回の講座のテーマは、みせ方の「みせ」を平仮名で書いたのには、わけがあります。

「みせる」ものを、大きくわけて、二つに絞ってみました。

一つ目は「自分を魅せる」。そして、二つ目は「物を見せる」です。

まず、自分をよりよく「魅せる」三つのアイテムとして、

- ・声
- ・表情（笑顔）
- ・所作（立ち姿）

これらは、セルフプロデュースするために、重要なものです。

続いて、二つ目の「物を見せる」は、先ほども子どもの発表で、「こうしたら良かったね」という話をしましたが、「常に相手にどう見えているか考える」ということが大切です。

では、早速、自分を魅せる、魅せ方の基本からいきましょう。

声・表情・所作の基本課題である発声練習からです。

- ・ロングトーン（大きくて、丸みのある声を出す）
- ・五十音（母音の口の形を意識して）
- ・鼻濁音（「が行」を鼻にかけた



★発声練習

①ロングトーン 「あ」

②あえいうえおあお
かきくけこかこ
させしすそさそ
たてちつてたと
なねにぬねのの
はへひふへほほ
まめみむめもも
やえいゆえよや
られりるれろろ
わえいうえおわお

③無声化

（鼻濁音）
かきくけこかこ

④「いただきます」「ありがとうございます」「いただきます」「ありがとうございます」

発音に）

- ・無声化（「ありがとうございませ」の「す」を無声化にすると、スマートに聞こえる）

続いて、表情、笑顔の作り方です。

女性は、口角を少し上げ、目じりを下げる感じで、男性もやわらかい表情をしてみましょう。この表情を身につけるためには、毎朝、顔を洗った後に、鏡に向かって笑顔を作ってみてください。毎朝練習していると、次第に自分のものになると思います。

続いて、立ち姿です。

- ・足を揃える。男性はかかとを付けて。女性はTの字
- ・胸を張る。
- ・あごは引く。

- ・腕は軽く下に

さあ、これらの基本姿勢を練習した上で、一度、自分の姿を確認してみましよう。ビデオをまわして、皆さんを撮影します。自分が一番美しいと思う姿勢で、立っててください。

（ビデオ撮影をした後、再生して、

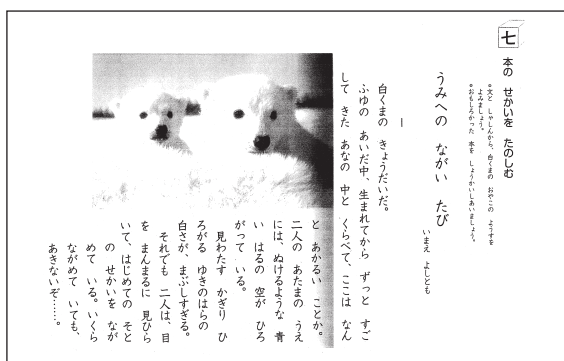


自分の立ち姿を確認してもらいました）

続いて、「自分を魅せる」ために必要な「声」について、発展課題に取り組んでみましょう。朗読です。課題文は、「うみへのながいたび」。小学一年生の娘の本から抜粋しました。まずは、下読みして下さい。下読みは、まずは黙読で内容を理解した上で、音読して下さい。

（下読みタイム）

この文章は、小学一年生にしては、難しいなと思ったのです。一文が長いのです。この一文は、続けて読んでください。また、景色



面所で身だしなみチェック。

- シャツ、スーツの襟は立っていないか。
- しつけ糸は取ってあるか
- 靴は汚れていないか
- 髪型の乱れ

（男子学生に面接に挑戦してもらって、ビデオ撮影をし、再生して自分の動きを確認しました）

次は、「所作と声の発展課題」で、紙芝居をしてみましょう。今回は「お茶にしましょ」という、相手との掛け合いができる紙芝居です。時間がなくなってきたので、私が紙芝居を読みながら、気をつけたらいいところを紹介して



いきます。まず、紙芝居は、この木の枠のことを「舞台」というのですが、舞台があつたほうがいいそうです。それから、子どもに見せるのであれば、長机の上など、子どもの目線になる位置がいいかもしれません。そして、読むときには、相手を見ながら、掛け合いを楽しんでみましょう。



続いて「物を見せる」総合課題である「テレビショッピングに挑戦」です。

テレビショッピングは、物を見せる究極の番組です。きょうは、我が家にあるおもちゃとリュック



サックを持つてきました。これが新品だと仮定して、売り物だと思ってください。別紙に、それぞれの商品の特徴を書いていますので、自分でいろいろ付け加えるなどして、売り込みの原稿を作ってみてください。三十秒ほどの原稿を書いてみましょう。字数にと二百字くらいです。

(商品の原稿を作ってもらいました)

男子学生がリュックサックを手に、テレビショッピングさながらの商品説明をしてくれました。リュックサックの紐の部分の説明

テレビショッピングに挑戦

商品一覧

1、リュックサック

- ・子供用
- ・子どもに人気のシュガーバニースのキャラクター
- ・ポケットは3つ
- ・肩にかけて、ひもが落ちないように、前の金具で留めることができる
- ・価格は3000円

2、鉄琴

- ・アンパンマンのキャラクター
- ・叩く棒にもかわいい絵があり
- ・ドレミファソラシドの音が出る
- ・価格は1000円

3、おもちゃ2個セット

- ・映画「スマーフ2 アイドル救出大作戦！」のキャラクター。名前は、パーティプランナーと、ババスマーフ
- ・スマーフは妖精。
- ・パーティプランナーは、帽子のところが笛になっている
- ・ババスマーフは、後ろに引いて手を離すと、走る
- ・きょうは、10個のキャラクターのうち、この2個を一人にプレゼント

4、お医者さんセット

- ・キティちゃんのキャラクター
- ・聴診器と、体温計、血圧計、ピンセットのセット
- ・かわいいケース入り
- ・価格は2500円

原稿を書こう：

する時には、ちゃんと、みんなに見せるようにしていて、見せ方が良かったです。

最後に、周囲の人とのコミュニケーションをとっておくと、自分が困った時に、周りの人に助けてもらえます。日ごろから、みんなとの和を大切に、これからの学生生活を有意義に過ごしてください

い。きょうの講座が、これからの皆さんの人生に、少しでも役に立てばうれしいです。講座に参加くださったありがとうございます。



教育学部の学生8人が松山市主催の「第15回学生による政策論文」 において、最優秀賞を受賞しました

学部トピックス

平成25年12月20日（金）坂の上の雲ミュージアムで、松山市主催の「第15回学生による政策論文」の入賞者発表・表彰式があり、教育学部造形芸術コースデザイン専攻の学生8人が最優秀賞を受賞しました。受賞者は、4年生の石川千尋さん、石川菜摘さん、村上彩花さん、3年生の上岡千恵さん、大江しおんさん、金田瑠衣さん、渡辺順子さん、松井紫帆さんです。

松山市政策論文募集事業は、第6次松山市総合計画に掲げる将来都市像「人が集い 笑顔広がる 幸せ実感都市 まつやま」の実現を目指す中で、学生がまちづくりや行政に関心をもち、その若い活力や柔軟な発想をまちづくりに生かすことを目的として、アイデアや意見を募集するものです。本年度は、連名の共同研究を含め、計67人から41点の応募があり、審査で4点が入賞しました。

表彰式では、学生たちが、受賞論文「コミュニケーションによる松山防災プロジェクト」の発表を行いました。この論文は、デザインを学ぶ学生、また、女性としての視点を活かしたアイデアで、コミュニケーションデザインの具体的な提案となっており、災害時に備えて、自助・共助意識の向上と主体的な市民の増加、避難者の負担緩和を目指し、若年層のリーダー育成を目的としたリーダー研修と、ポケットサイズの防災対策マニュアル「避難所で困った時に」や避難所環境の改善を提案しています。

学生たちは、多くの方々に取材やアンケートで協力してもらったことに感謝し、この受賞で終わりではなく、論文執筆で学んだことを今後も活かしていきたいと抱負を語りました。

また、野志克仁市長より「提案を今後の市政やまちづくりに積極的に活かしていきたい」とお言葉をいただきました。

★受賞論文テーマは「コミュニケーションによる松山防災プロジェクト」です。



教育学部同窓生の女優加藤富子さんによる
「魅力的な話し方講座」を開催しました【2月27日（木）】

平成26年2月27日（木）に、東温市見奈良の坊っちゃん劇場で、当劇場で上演中のミュージカル「げんない」に出演中の女優、加藤富子さんによる「魅力的な話し方講座」を開催しました。

この講座は、同窓生を中心に多方面から学生に対する支援をお願いする『教育学部サポーター制度』の取り組みとして平成21年度からスタートしました。今回で13回目となり、1年生から大学院生までの17人が参加しました。

加藤さんは、平成23年度に引き続き2回目の登場です。当日は、演劇の技術で感動を与える話し方を受講生に学んでもらおうと、午前中に加藤さんが出演中の「げんない」を観劇した後、午後からワークショップを行いました。

加藤さんは、「役者は自分の全てをさらけ出して役や人と向き合い、いろいろな人間になります。ただ台詞を覚えて言葉を発しているだけではありません。言葉の裏の気持ちを探るのが役者です。今日は即興劇などに挑戦して、心で感じ、頭で考えて体をたくさん動かして行きましょう。」と挨拶があり、ワークショップに移りました。

受講生は、猫になりきったり、相手の提案を断り続けたりする様々な課題に挑みました。また、幸せ・悲しみ・怒りの三つの感情を挨拶で表現する課題では、表情や声のトーン、歩く速さを変えることで表現していきました。受講生は、「相手を感じながら、自分を伝える」「相手の気持ちになって聴く」など、普段役者が訓練している演劇のスキルを使っのワークショップの中で、楽しみながらコミュニケーションの本質を体で感じる事ができたようです。

最後に、加藤さんから「心が感じると、体の動きも変わります。表情は相手に伝わり、自分を見つめると相手の気持ちも分かるかもしれません。今の気持ちを大切にしてください。」とアドバイスがありました。

受講生のアンケートでは、「とても勉強になった」「コミュニケーションの楽しさ・大切さを実感することができた」「日常にも活かせるようなものばかりで、今後教員をして教壇に立った時に活かしていきたい」といった感想があり、充実した講座になりました。



講師の加藤富子さん



ワークショップの様子

職場だより



初任研の二年間を終えて



西条市
吉井小教諭
大西 哲矢
(平二三卒)

私は大学院を修了してから三年間講師として勤務し、平成二十五年度に念願であった教員採用試験に合格することができた。高校講師として勤務した宇和島において、昨年度より新規採用教員としてスタートをきった。

思い返してみれば、講師として初めて授業を行っていた一年目は文字通り右も左も分からない状態で毎日の授業を乗り切っていた。当時は具体的な指導の技術などなく、大学時代の講義で聞いた内容を思い返しながら試行錯誤していた。

その時の経験は初任者研修の一年間でとても役に立ったと思う。それは実際に授業をしたり、生徒指導で子どもたちに関わる中で感じた様々な疑問や行き詰まりを同じ研修を受ける仲間たちと共有しながら学ぶことができたからだ。また、学校内で先輩教員の授業を見る機会に多く恵まれたのも、

自分の授業の欠点を見直す上で参考になった。特に、美術科の教員は大規模校であっても複数配置されている場合が少ないため、普段の授業をどのように行っているのか知ることが難しい。授業の導入における指示や個別指導における留意点、作品の管理や採点などについてご指導をいただいたことで、とても参考になった。

初任者研修では、様々な方々のお世話になったが、その中で常に、私が心に留めている三つの言葉がある。

一つ目は「学ぶ側の気持ちを大切に、謙虚な姿勢で学びなさい。」というものである。初任者研修を通して、教師として児童・生徒に授業を行う上で大切な事は、学ぶことへの喜びや不安など児童生徒がもっている感情を把握しておくことだと私は考えるようになった。「今から学ぶことがきちんとできれば、こんなことで役に立つ。」とか「このことができないようになればこんなに嬉しい。」という子どもたちが学習に向かう時の期待感は、導入などを効果的に行う上でとても重要なことであると思う。

また、それと同時に子どもたちは「何だか難しそうだな。」とか、「自分でできるだろうか。」とい

う不安感も抱いている。得意分野はついつい、「こんなに簡単なんだからできるはず。」という思い込みをしてしまう。教師から見ても簡単なことでも、できない子どもの不安感を忘れてはならない。

そんなことを考えながら研修を受けていると、「こんなところの指示があればもっと動きやすい。」とか、「こんな展開にすれば緊張感をもったまま取り組むことができる。」という子どもの立場に立つ指導することができた。

二つ目は、「授業中に三度静かにしなさい」と注意したら、教師の負けだ。」という言葉だ。初任者研修の中で大きな山場であるのが研究授業である。日ごろの成果を発揮するために、教師は精一杯の準備をして授業に臨む。そして、私の行った研究授業では、いずれの授業でも子どもたちは一生懸命に応えてくれた。子どもたちは教師の言うとおりに学習に取り組む。それなのに私語が多くなつて、授業の雰囲気や学習に向かうものから離れてしまうとすれば、それは教師の指示に至らぬところがあるためである。そんな状況の中でご指導いただいた言葉であり、私は、はつとさせられた。同じ展開の授業案であっても、実践する度に変化していく。予想外の事態は常に考えられるので、一度や二度は「静かにしなさい。」という教師の指示が必要になる場面も考えられるだろうが、三度ともなると、それは教師の側の準備不足で

ある、と教えて頂いたのを思い出す。教師として授業中の子どもたちの様子は、そのまま教師の鑑であるのだ。

最後の三つ目は、「植えられた場所のできない。」という言葉である。

花は自分の咲く場所を選ぶことができないが、どんな場所に植えられたとしても精一杯きれいな花を咲かせようとする。教師として、どんな場所でも、どんな子どもたちを前にしても精一杯のことをしなさい、と教えられた。できない理由を探そうとするのではなく、自分に与えられた状況で今、できることは何かを考えて実行する。当たり前のようであつても、常に意識しておくことは難しいことである。この言葉はそれを端的に表現しており、子どもに説明するときに分かりやすいので、卒業生に贈ったこともある言葉である。

子どもたちは、授業以外にも教師の様々な言動から強い影響を受けながら成長していく。

今の私は、初めて住む土地西条で、初めて経験する小学校勤務という環境で、二年目のフォローアップ研修に取り組んでいる。

これら三つの言葉を胸に、自分の贈った言葉に恥じないような一年間にしていきたい。

(☎) 799-1352
西条市三津屋東

八二三

表紙作品について

第四十五回日展 (二〇一三)

特選作品

「懐郷」

作者

渡邊 裕公

(本名・博明)
(昭四九卒)

第四十三回日展で特選受賞、翌年(二〇一二)は無鑑査出品、二回連続の特選受賞。

・憧れと希望を胸に大学生活を送る彼女。成長の中にもふと見せる一人暮らしの不安、ふる里への思い、そんな一瞬の表情を見せながらも強くありたいと願う姿を表現。
・キャンパスにカラーボールペンで描写

・公益社団法人日展 会友
一般社団法人光風会 評議員

—*—*—*—*

※百余年の日展の歴史で愛大卒業生の日展受賞は三人目。

寺坂公雄 (80)

日展理事長

光風会理事長

日本芸術院会員

長井 功 (80)

光風会理事

遠回り人生



今治市
波方小教諭
鎌倉 慶
(平一九卒)

四月になり新たな学校で新形式、始業式をし、新年度が始まった。学級の児童はというと、素直な子が多く、進んで学級の仕事をしようがなげばり屋がたくさんいる。そんな子どもたちに囲まれ、毎日忙しく楽しい日々を過ごしている。そんな折、空き時間に急遽校長室に呼ばれた。何事かと不安でいっぱいになった。だが、話を聞いてみると何のことはない、同窓会報の原稿依頼だった。ほんと胸をなでおろす。いや、これほどでもない一大事だ。これまで諸先生方が書かれた記事を読ませていただき、学校生活での様子や、苦勞をしながらも子どもと一緒に成長してきたことなどたくさんのお話を勉強させてもらっていた。そのような記事を今回私が書かせていただくことになった。責任重大である。私にとってかなりの重責ではあったが、これまでの自分を振り返り、新採となったこれからを考えるのいい機会だと考えるようにし、引き受けさせていただいた。

今治市立城東小学校、今治市立美須賀中学校を卒業し、高校へと進学した。部活ではバレーボール部に所属し、決して強いチームではなかったが、ボールを追いかける楽しさを感じながら活動することができた。この辺りまではいわゆる順調な学生生活だったように思う。

高校を卒業し、周りが大学生になり一人暮らしを始めて楽しく自由な大学生活を送っている頃、私は予備校に缶詰め状態になっていた。部活に熱中し、勉強をおろそかにしていたつがが回ってきたのだろう。八十人ほどの寮生活を一年間経験し、お互いの目標に向かって切磋琢磨した経験は何事にも替えがたいが、ここから私の「遠回り人生」が始まったように思う。一年の浪人生活を経て、晴れて愛媛大学教育学部合格した。大学生になってもこれまでと同じようにバレーボール部に入学した。ただ、一つだけ違っていたことは、愛媛大学バレーボール部は強豪チームであった。これまでの楽しさに加えて、勝つ喜びというものも味わうことができた。そして、これまで以上に没頭した。そう、再び勉強はそっちのけだった。講義こそ真面目に取り組んだが、必要最低限のことしかしなかった。それくらい部活動に傾倒していたというわけだ。そんなバレーばかりの大学生生活もあったという間に終わりを迎えようとしていた。し

かし、卒業後の進路はなかなか決まらなかった。採用試験を受けたものの、やはり不採用。しかし、幸いなことに講師としての働き口が見つかり、受験をしながらの社会人生活が始まった。「遠回り人生」第二章のスタートだ。

最初は中学校に赴任した。初めての本格的な授業に、副顧問として不慣れた競技の部活動。つらいこともあったが、生徒の笑顔や先輩方の優しい指導のおかげで何とか教員としての基盤ができたように思う。

次の年からは、小学校に赴任した。そこには同年代の先生もおり不安や不満をお互いぶつけ合った。当然その話合いと言う名の会合は夜遅くまで続き、しかも何度も開かれたので、三度勉強はそっちのけであった。その後、何校か



小学校に赴任したが、不思議とどの学校でも同じような会合は開かれた。今思い返せばなんとなくめまされた講師生活だったんだろうと感じずにはいられない。

そのような講師生活は七年にも及び、多くの人に心配をかけてきたが、ようやくこの春に新規採用として新たな学校に赴任した。ようやく「遠回り人生」も一応の終焉を迎えたわけである。長年の遠回り、あるいは足踏みをしたことに対して、私自身なんの恥ずかしさも後悔もない。遠回りしたからこそ感じたことや学んだことがある。そのことを児童の生活に照らして、伝えられることはしっかりと伝えていきたい。そして、この一年間で多くの研修が待ち受けているが、講師経験による凝り固まった考えに陥らないようにフレッシュな気持ちで研修を受けて、たくさんのお話を吸収したいと思う。そうして自己研修を重ね、自身の人間力を育成していくことが、児童一人一人の力や可能性を伸ばすことにつながるはずだから。さらに、授業や課外活動だけでなく、休み時間も子どもと一緒に過ごしてコミュニケーションを図ることで、一緒に喜んだり、悲しんだり、気持ちを共有できる教師を目指す。

会報の送料納付について

記

平成二十六年二月号でもお知らせしましたように、会報の個人宛発送は、送料を各自で負担していただくことになっております。出費多端の折柄恐縮ですが、未納の方は、左記要領で納付方お願い申し上げます。

①一年間五〇〇円で、二年間分ずつ収めるようになっていきます。

②二年ごとの更新は、煩さなので、何年間かを、まとめられる方もあります。

納付期限 毎年三月三十日までとし、二年毎に更新する。

送金方法 郵便為替・現金書留・郵便振替で

振替口座番号

〇一六四〇一七二七五四
送り先 七九〇一八五七七
松山市文京町三

愛媛大学教育学部同窓会

領収書は、振替用紙をもって、かえさせていただきます。

799-2109 今治市波方町養老

甲八〇三二一

教師として はたらくこと



愛大附属小教諭
河口麻衣子
(平五卒)

手元に届いた寄稿者推薦依頼を見てみると、寄稿者としての推薦対象が、「若い会員」とあった。自分は若くはない。しかし、封筒の表に「麻衣子さん、お願いします。」と書かれていた。本校に麻衣子は私ひとりだけだ。仕方ない、ここはひとつ、私を「若い会員」として選んでくれた先輩のために、がんばって文章をひねり出してみよう。

そう考えて、教員としての日々のくらしを振り返ってみた。愕然とした。愚痴と言いつつばかりが出てくるのだ。「毎日毎日忙しいなあ。忙しすぎる。」「あれだけ指導したのに、子どもたちはまだ分かってくれない。」「しないといけないことが多すぎて、子どもたちとゆっくりかわる時間がない。」「など、よく考えれば（よく考えなくても）自分の力不足によることばかりなのに、いつの間にかできないことを周りのせいにしてい

まっていた。

改めて、目の前の子どもたちに目を向けてみた。今年度担任している四十名の五年生。運動会の練習が始まり、種目の練習に係の仕事、勝つために作戦を練ったり、準備を進めたりと、遊ぶ間もない忙しさだ。それでも、子どもたちは、自分たちの手で運動会をよりよいものにしたという思いをもって一生懸命活動している。休み時間を使って学級旗を作成したり、声を掛け合ってバトンパスの練習をしたりしている。アイデアを出し合う中で友達と意見がぶつかっても、共に悩み、最後には笑い合いながら一つのものにまとめている。

うーん、子どもたちに負けている。忙しい中にもやりがいを感じながら、自分にできることを精一杯がんばろうとしている子どもたちの姿に、今の自分を反省させられた。

総合的な学習の時間の活動として、子どもたちと「はたらくこと」について考えている。警察官や清掃課の職員、設計士、主婦など、様々な「はたらく人」と出会って話を聞くことで、子どもたちは、「責任感をもって働くことが大事なんだな。」「働く人たちはみんな、やりがいを感じながら

働いているんだ。」「やりがいは、周りの人たちからの感謝や家族の笑顔、自分のスキルアップなど、人によっていろいろなんだ。」という感想を話し合った。そして、気付いたことや学んだことを自分たちの生活で生かそうとした。係や当番の仕事を責任をもってやり遂げようとし、校内をきれいにするといいやりがいを感じながら掃除に取り組んでいる。そんな子どもたちを「よしよし。」と眺めている自分は、どうだろう。「はたらく人」として胸を張って子どもたちに話ができるだろうか。子どもたちが学びの中で見つけた「はたらくことキーワード」のいくつかを挙げて、自分自身について考えてみる。

【笑顔】子どもたちや周りの先生方のおかげで、笑顔のない日はない。逆に、周りの人を笑顔にできているかな？

【責任感】自分の責任の重さは自覚しているつもり。しかし、積極的に責任を引き受けようとする姿勢を忘れていたのではないかな……。

【好き】この仕事が好きかと自問自答すれば、答えはやはり、「好き」。

【支え】この仕事を好きだと言えるのは、子どもたちの成長や周り

の先生方とのつながりが支えになっているから。

【感謝】年齢と経験を重ねるうちにだんだん図々しくなっている。感謝の思いをきちんと形に表したいものだ。

【夢・あこがれ】教員になることは小学生の頃の夢だった。その夢をかなえて働いているということに再認識した。ところで、将来の夢を目をキラキラさせて話す子どもたちを見て、今の自分は夢をもっているかとふと不安になって考えてみた。とりあえず夢はあった。しかし、子どもたちの夢に比べて、大きな声で言えないものばかり……。自分をもう一度よく見つめ、子どもたちと語り合える夢を見つけない。

【達成感】研究授業をやり終えたり、行事が一つ終わったりしたときに、小さな達成感を得られる。一人の子どもが「努力しなければ達成感を得られない。」と言ったが、その通り。一年を終えてたくましく成長した子どもたちを次の学年へ送るときが、最も達成感を得られるときだ。達成感の大きさは自分の努力次第ということをお忘れないようにしたい。

【やりがい】子どもたちが一歩一歩成長していく姿をみることで、子どもたちと共に少し成長した自分

を発見すること。一つのことをやり遂げて先生方と交わす乾杯。

このように考えているうちに、少しずつ前向きな姿勢や気持ちを思い出してきた。完成に近づいた学級旗を見ると、「絆」「信じる」「勇気」「協力」といった言葉が書かれている。子どもたちのおかげで、大切なことを思い出させてもらった。今回の原稿依頼も自分を見つめ直すきっかけとなった。ありがとうございました。

これからも、忙しい日々の中で少々愚痴ることはあるだろうが、子どもたちに負けないように胸を張ってはたらいていきたい。

（☎）
790-0855
松山市持田町一丁目
五十二二



子どもたちのもつ

無限大のエネルギー



松山市

和氣小教諭

本 真理奈

(平二四卒)

「私を教職に引き付ける最大の魅力は、『子どもたちのもつ無限大のエネルギー』です。」と、教員採用試験の自己アピール欄に書いてから早くも三年がたとうとしている。その考えは今も全く変わっていない。毎朝布団から出るのは億劫だが、子どもの声を聞くとは自然と背筋が伸びる。

二年間持ち上がり、私の背筋を伸ばし続けさせてくれた子どもたちも、もう六年生になった。私の顔を見る度に恥ずかしそうに笑ったり、なぜもう一年持ち上がらなかったのか尋ねたり、近頃は、「一緒に修学旅行行けたらよかったのに。お土産買ってくるよ。」と声を掛けてくれる。そんな可愛い子どもたちも、すっかりお兄さん、お姉さんを務めている。児童会や縦割りブロック、委員会、クラブ

などでリーダーをする姿やかいがいしく一年生の世話をする姿を見る度、何とも説明しがたい高揚した気持ちを感じる。

今年度は一年生三十五人を相手に、頭よりも声と体力を使う毎日を通している。これまで「一年生は宇宙人だ。」などという話も何度も聞いていたため「一年生の担任は、とてもじゃないが務まりそうにない。」と不安をもっていた私は、今年の四月二日、ある先輩の先生にその不安を漏らした。すると、「そんなの全然気にならないぐらい、とにかくかわいから。絶対できるよ。安心して。」と励ましてくださった。そして今、言われたとおり、不安はどこかへ吹き飛び、三十五人それぞれ、一人一人がかわいくて仕方がない。若さしかない、頼りない私なのに、いつでもどこでも呼びかけてくる子どもたちの「できたよ。」「できるよ。」「見て、見て。」の重なる声に、嬉しくなっている。笑ってしまうことが何度もある。

朝顔の芽が出るのを心待ちにして水やりのあとも土をじっと眺める姿。習ったばかりのひらがなをプリントの裏が真っ黒になるまで練習する姿。タイヤを飛び越えられるようになったところを見て欲しくて運動場の端っこから必死で私を呼びに走る姿。給食を口いっぱい頬張りながら、お昼の放送で流れる今月の歌に合わせながら鼻歌を歌う姿。転んだとき大声をあげて泣きながら抱きついてくる姿。いつ見てもエネルギーいっぱい、本当に、素直で真っ白でやわらかな感性をもった子どもたち。そんな大好きな子どもたちに、私は、学級担任としてどんな色をにじませられるのだろう、にじませてしまうのだろうと考える。

新年度になってからの一か月と、それまでの二年間の学校生活で、自分の伝えたいことを上手に言葉にできなくてもどかしそうにする子どもや、トラブルになってしまった子どもを何人も見てきた。その度に「伝え合う力」をつきたい、つけなければならぬと思った。コミュニケーションの手段としての言葉の力はもちろん、思考や情緒の基盤としての言葉の力も身につけさせたいと願った。しかし、そのために何か行動することができたかといえば、答えはノーだ。

思いや願いがあっても行動しないのは自分に甘えているからだ。先日、たまたま小学校の卒業アルバムをめくっていたら、ある先生が書いてくださった「自己満足しない人間の多くは、永遠に前進し、永遠に希望をもつ。」という魯迅の名言が心に突き刺さった。子どもがいて、その成長をそばで見られて、それだけで幸せというのは、甘い、違うと言われたような気になった。私は教師だ。愛媛大学在学中、教師は授業が勝負と何度も聞いて、そのとおりだと思っていた。ところが今の自分は教材研究の時間も十分に取らず、課題に思っている言葉の力のために文献を読むことすらしていない。今回、この投稿をきっかけに、いま一度、謙虚に、誠実に子どもたちと向き合い、行動していかなければならない。

先日の晩、私が母に学校での嬉しい出来事を話していたときに、隣で聞いていた双子の妹が「なんだ、『うちの子』って言うから誰のことかと思った。クラスの子どものことか。」とつぶやいた。ふと、三年前、所属していたわくわくチャレンジサタデーの同回生みんなが教員採用試験の勉強をしながら「早くクラスをもたせてもらって、『うちの子』って呼べるようになったらいいね。」と話していたことを思い出した。今年のゴールドウィークも「わくチャレ」のみんなで集まって語り合った。みんな「うちの子」という言葉を自然に使って、次の参観日のことや悩んでいる学習指導のこと、プライベートの近況報告まで様々な情報交換をした。中には、嬉しい知らせもあった。仲の良さは変わらないうが、着実に月日と経験を積んでレベルアップしていく仲間刺激をもらった。大学でできた縁は大切にできている。今後は「教師としてのレベルアップ」を課題として、周囲にいる先輩の先生方にお力添えいただいていることに感謝の気持ちも忘れず、積極的に研修等に参加するなどして新たな縁づくりに励んでいきたい。

(☎)
799-2654

松山市内宮町

二一〇三

前 進



新居浜市

角野中教諭

近藤友香里

(平二四卒)

「将来は英語に関わる仕事ができたらいいな。」漠然とした気持ちで、愛媛大学に入学した六年前の春。大学在学中はさまざまな国の方々と交流を通し、英語の楽しさ、面白さを再発見する機会に恵まれました。また附属中学校での教育実習を通し、子どもの教育に携わることへの責任感と同時に、成長に関わることでできる喜びを体験することができました。

この実習をきっかけに、「英語の楽しさをもっと多くの子どもたちに伝えていきたい。」という気持ちで芽生え、教員になることを決心しました。

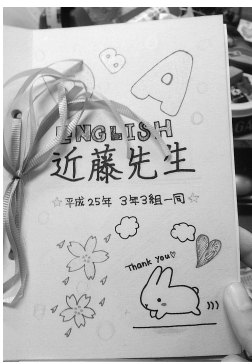
大学卒業後は、一年間講師として新居浜市内の学校で勤務しました。大学を卒業してすぐの赴任で何もわからないままスタートした教員生活。夢を抱き、希望でいっ

ばいで教壇に立った四月でしたが、教科経営、生徒指導ともにうまくいかないことばかりでした。そんなとき、いつも優しく声をかけてくださり、相談ののつてくださったのは先輩の先生方でした。先生方の優しさに触れ、毎日小さな目標を掲げ、生徒と地道に関わっていきました。そして、子どもたちからももらったパワーを勇気に代え、初任者としての春を迎えました。

初任者として赴任した初日。気持ち新たに、正門をくぐると、数名の女子生徒の「おはようございます。」という大きな声が響き渡っていました。どんな生徒に出会えるのだろうかと緊張していましたが、明るく元気な生徒の姿に、ほっとし、嬉しい気持ちになったことを今でもふと思い出します。また今年度は一年団所属の副担任として一年生、三年生の英語の授業を担当しました。そんな

毎日の授業で特に印象に残った出来事がありました。三年生にとって義務教育最後の英語の授業。いつも大人しく、音読の声も小さいクラスでしたがこの日は今までと

様子が違いました。授業を終えようと一声かけると代表の生徒が、「先生、今までいろいろ迷惑かけてすみませんでした。いつも一生懸命な先生に元気をもらいました。英語の授業もとても楽しかったです。今までありがとうございました。」と言葉を添え、色紙をくれました。生徒一人ひとりの顔を見ると、涙がこみあげてきました。どうしたら難しい学習内容も生徒が理解しやすいものになるのだろうか。落ち着いて学習する雰囲気を作るためにはどんな手立てをすればよいのだろうか。悩みながらもただひたすら自分にできる精一杯の授業をした一年間。「生わかった！」生徒から発せられるこの言葉の持つ力の大きさに気付いた一年間。私にとってこの一年間は、教師として新たな一歩を踏み出した、一生忘れることのないものとなりました。



教師になる夢のスタートラインをきることができた二〇一三年。これから長い教師生活がスタートする。そこで、これからたくさん生徒と関わる中で心にきめていることが三つある。一つ目は、子どもが発するシグナルをしつかりとキャッチし、子どものつぶやきに耳を傾けること。そのために、授業前、なるべく早く教室に行き、生徒とコミュニケーションを図る時間を増やす。二つ目は、毎日の学校生活の中で、子ども一人ひとりの様子を観察し、少しの変化も見逃さないこと。例えば、毎日の朝のあいさつは全員とするなどし、生徒の変化に気付きたい。三つ目は、子どもたちのことを誰よりも考え、大切な存在であると伝えること。楽しいことは生徒と一緒にやって楽しむ、だめなことにははっきり伝え、正しい方向に導く。このようなメリハリのある指導を行い、常に愛情を持って生徒に接することがとても大切だと思います。

私の理想の教師像は、日々勉強、日々成長をモットーに学び続ける向上心を持った教師である。

何事もチャレンジ精神でまずは何事もやってみることを大切に、これからたくさん生徒と関わっていききたい。また子どもの成長に関わることができる喜びと責任を感じながら、これからも毎日笑顔で、明るく、元気な子どもたちの学校生活を支え続ける教師であり続けたいと思う。

792-0833 新居浜市宮原町 一一一五一



多くの出会いに

感謝して



伊予郡

砥部中教諭

武智 真理

(平二二卒)

ようやく長年の夢であった教職に就くことができました。振り返れば、これまで多くの人とのお出会いがあったからこそ、ここに立つことができていると強く感じています。

その一つが大学の恩師との出会いです。英語の歌詞を対訳するという講義に強く魅了されました。英語の歌詞を日本語に訳すという作業ですが、例えば「I」を「僕」と捉えるか「私」と捉えるかで歌詞の世界が変わることにハッとさせられました。また、beautiful day」という言葉も、「キラキラした日」と捉える人もいれば、「心躍る日」と捉える人もいます。同じ言葉からでも、そこから受けるイメージや意味は、人によって様々なのだという事に面白さを感じました。そして、英語を学ぶことによって今まで日本語だけで見てきた世界から、もっと広い世界に誘ってくれるものなのだと初めて気付かされました。この恩師との出会いによって、それまで感じる事のなかった英語を学ぶことの面白さと奥深さを感じることができたのだと思います。

二つ目は、大学院で出会った悩みを抱える中学生や若者との出会いです。子どもたちの悩みに寄り添う人になりたい」と言う思いから、大学時代とは全く異なる臨床心理学の分野に飛び込みました。そこでは実際に不登校や自傷行為など精神的な悩みを抱えた中学生や若者と実際に向き合っ話話を聞く時間を持ちました。人の話を聴く」ということが、決して容易なことではない、ということをも身をもって感じた時間でした。同時に、今の子どもたちに必要なのは、「自分をありのままに受け入れ、自分を肯定する力」であると強く感じるようになりました。そして、そんな手助けができるのは最も子どもと多くの時間を共有することのできる仕事、教師しかないと考えました。大学院での出会いがなければ、私は教師を目指してはいなかったと思います。

そして昨年、私にとっては特別な三十七名の生徒たちに出会いました。教師として初めての自分の学級の生徒です。四月の始業式、子どもたちが真剣なまなざしでこちらを見ている姿に、身が引き締まる思いがしたことを今でも忘れません。ですが、そんな緊張感もいつの間にか忘れてしまうほどに、日々色々なことが起きました。まずは、クラスの雰囲気の変化です。クラス替えをしたばかりで、子どもたち同士もお互いの距離をはかる時期は、私の話も静かに聞くことができていました。ですが、子どもたちが打ち解けあってきたころ、生徒の様子が変わっ

てきました。私の話をしている間に、よそ見をしたり、よそ事をしたり、私語をしたり……。静かにしなさい！」と私は怒鳴ることで増えてきていました。そんなときに、当初体調不良で休んでいた男子生徒が、ある日「朝になると気分が悪くなる」と言っ学校を欠席する連絡が入りました。もともと、友だちと関わるのが苦手なタイプの生徒でしたが、そんな事態になっているとは思っていませんでした。すぐに家庭訪問をして、じっくり話を聴きました。話している中で、生徒がクラスのことではなく、部活のことで悩んでいることが分かりました。気持ちを理解したことを伝えて、明日は学校に来てほしい」と伝えると小さく頷きました。学校に帰ってから、学年主任の先生に、「どうだった？」と聞かれ、状況を報告しながら、私の目からは自然と涙が出ていました。自分の思うようにいかないことばかりに、やるせないさや情けなさを感じていたからだと思います。そのとき、その先生に、「問題はね、たくさん起きたほうがいいのか」と言葉を掛けられました。すぐには理解できなかったその言葉の意味を、日を重ねるうちに実感しています。人間は問題にぶつかなければ成長しないのだ、とその先生は言いたかったのだでしょう。それは教師である私はもちろん、生徒である子どもたちも同じです。それが分かっていた今、子どもたちが問題にぶつかって悩んでいる姿に直面したとき、表面では一緒に悩みな



(一)
790-0942
松山市古川北
一〇一九一八

くなつたように思います。いろいろな行事や日々の中で、数えきれないくらい嬉しいことや、苦しいことがありました。そして迎えた三学期修了式の日。教室に入ると、黒板いっぱい書かれていた「先生ありがとう」というメッセージ。三十七名全員からの手紙をもらったときに、人と人との出会いの喜びを心から感じました。そして何より、教師になつてよかった、と思つた瞬間でした。

原稿募集

次号 第百十九号

短くても結構です。多くの方々のお気軽な寄稿をお待ちしております。

○『会員の声』・「今、教育に思うこと」について、ふるってご投稿下さい。

★ 同期会や支部同窓会などの集会や活動について

★ 恩師・先輩・同僚の訪問や思い出について

★ 職場の近況や所感や活動について

★ 文芸(随想・俳句・川柳・短歌・詩・絵手紙等)について

★ 会員便り

1 旅行記 4 この頃思うこと
2 季節便り 5 忘れ得ぬ人など

3 教育雑感

※ 投稿が多数になった場合には、編集委員会で選ばせていただきますので、ご了承ください。

★ 原稿〆切 十一月三十日

★ 発行 二月一日 予定

★ 字数 依頼者以外は千二百字厳守

四〇〇字詰原稿用紙の一行を十五字にして書いて下さい。

★ 写真 筆者の顔写真を添付してください。顔写真以外で内容に関連した写真もあれば送ってください。

文 芸



川 柳

子 の 育 て



丹下 友和
(昭二三卒)

仏にも鬼にもなつて子の育て
褒め上手叱り上手の子の育て
怒鳴るよりじっくり諭す低い声
叱り方下手で反感ばかり買う
決め付けず子の言い分も聞くゆとり
聞き飽いたママの小言に子はそっぽ

早く芽を出せよ伸びよで萌やしつ子

激動の昭和を生きて来た我慢

政治家へ顔より視野の広い人

夕焼けについて口ずさむ赤とんぼ

落ち着かぬ心の渴き組む座禅

負けて勝つ術で同居につつが無い

三世代丸く治まる思いやり

欲得が無いから響くおもてなし

思いやり感謝で結ぶおもてなし

(☎) 791-1104
松山市北土居五丁目
一―三九

絵 手 紙

描 き 続 け た い



井上 弘子
(昭四五卒)

自分から望んで入った絵手紙教室は、居心地がよい。おしゃれで気さくな先生と十数名の会員が集っている。季節の果物・野菜や美しい草花が机上に置かれると賑やかになる。「わあ、いい香り。」「もう出ているの。」「今晚、料理して食べたら。」と言葉が飛び交う。そんなすてきな心温かい仲間なのだ。

いざ、絵手紙に挑戦し始めると、沈黙そして静寂の中にみんなが入り込み別世界が生まれる。「あ、真剣な表情、いい時間だなあ。」といつも思う私なのだ。

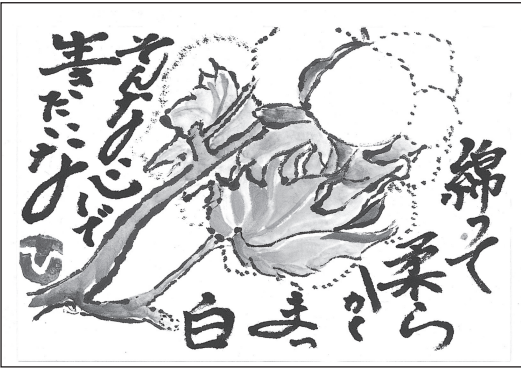
幸せなことに、夏休みには地域の小学生と絵手紙を通して触れ合う機会があり、元気をいっぱいもらった。

また、私達の作品を地域の公民館や銀行に展示して、温かい感想や言葉をいただきありがたく思っている。たった一枚の小さな絵手紙だけれどつなぐ力は大きい。

ある展示会で、「あの絵手紙を私に譲ってくれませんか。」と見知らぬ方が声を掛けてくれた。初めての事なので驚いたが、最高に嬉しかった。今もその人は、お気に入りの絵として大切に飾ってくれている。

絵が苦手で始めた絵手紙。まだ五年余である。「うまくなくていい。下手がいい。」のお教を心に、素直に見つめ感じるままを絵手紙に描き続けたいと思っています。

(☎) 790-0806
松山市緑町二丁目
六―二九



俳句

晩学のたのしみ

白石 美子
(昭二六卒)

寄稿の話をいただいたのは桜の頃でしたが、すっかり若葉の季節を迎えました。

今回は、四季吟詠集二十七（東京四季出版日二十五・二月発行）を中心に近詠を含めて選んでみました。

俳句は生きる証、自分の作品を見直すことは、自分の生き方をふりかえる思がします。私は「樫」に所属しています。いつまでも駆出しで恥ずかしいのですが、晩学の楽しみは尽きません。

今後も、ふるさと大洲の自然や物・事を通し、主宰や句友とのふれあいを大切になりたいと思います。

そして、喜びや悲しみを率直に

かみしめ、素直な気持ちで気負わず、身の回りを丁寧に見つめ、ゆつくりと自分の俳句作りを楽しみながら精進したいと思っています。

春

春暁の雲むらさきにたなびけり
やはらかき風きて春の動きけり
年寄りの沖を見てゐる鳥雲に
享年の若きに供ふさくら餅

夏

川のある町に住み古り河鹿笛
あとしざりできぬ性分鉄線花
贅沢な闇につつまれ蛍狩
すり寄りし鹿の若角なまぬるき
橋裏を斜めに仰ぎ鵜飼舟

秋

若者の歩幅の広き星祭
前山のくすんでをりし大厄日
戸袋へ板戸を納む野分あと
石段をゆづられてをり秋彼岸

落鮎の光りし網を高く上げ

立ち寄りし味噌屋にもらふ濁り酒

冬

おだやかなけふのはじまり冬桜
てのひらに音の乾ける芙蓉の実
行きずりの人とあいさつ蓮枯るる
くぐり戸の華やいでをり牡丹雪
雪嶺に取り囲まれし盆地かな

(☎) 795-0025

大洲市阿蔵

甲一八五九一五

短歌

平井 直子
(昭二五卒)

窓近くくぐみ鳴く鳥の声に覚めけ
ふのひと日の段取り思ふ

早朝に読む新聞の計報欄知り人の
なきをまづは確かむ

健やかに今在ることの有難し草ひ
き琴弾きパソコンを打つ

又の世も夫に逢はむと香を焚きひ
と日の哀歎こまごまと言ふ

悩みごとあまたあれども生きてを
り億光年の星仰ぎつつ

滾くる思ひのあれば夜をひとり
琴弾きてをり心澄むまで

ひとかどのこと成し終へし思ひに
て演奏に着たる和服干しをり

松風のごとき釜音ききながら節高
き手に茶筌振りをり

わが夫のけふ三十三回忌子ら集ひ
きて祭りのごとし

なるやうになる案ずるなど言ひて
ゐし夫思ひつつ庭の草とる

わが終焉かくあれかしと思ひつつ
沈む真紅の夕日を送る

傘寿を過ぎて一段と出来ないこ

とが増え家にこもる日が多くなつて参りました。若い人たちに引張っていただき、退女会、趣味の会、地区の会などに入れていただいております。先日も近隣の二十二名で伊勢神宮へ行つて参りました。

早いもので夫が桜三里から旅立つて三十二年が過ぎてしまいました。家族だけで三十三回忌の法事を終えほつとしております。

そろそろ断捨離を思うのですが、昭和ひと桁などでなかなか実行できません。好きなことは料理すること。新聞や本を読むことですが此の頃は片端から忘れてしまっています。庭や道端に四季花を咲かせて慰められています。

(☎) 799-0704

四国中央市土居町津根

一八五〇



先輩を偲ぶ

林傳次先生遺稿集

「把翠」を繙く(九)

「巻頭言」集

『愛媛教育』誌より

【何の為の学問か】

七月某日の新聞は文学士法学士の肩書きを有する或る人の自殺を報じた。其の真因はもとより知悉し得べくもないが、新聞の伝ふる所によれば、四十二歳の今日まで独身で専心学究にいそしんだ篤学の士であるが、傍系から大学に入學したものである為、助教授の地位も後進に占められ、提出した博士論文も通過しなかつたのを慨し、換言すれば学閥の為に榮進を阻止せしめられたのを憤慨して我と我が命を断つたといふのである。

果して学閥の為に榮進が阻止されたのか否かは知り得ないが、学閥なるものが色々の方面に色々の形で表れるのは事実である。然し今、言はんとするのは其の点ではなくて、氏が何のために学問したかを考へてみたい。

助教授になれなかつたから、博士論文が通過しなかつたから自殺する。此の言葉を皮肉に解釈すれば、助教授になる為に、博士になる為に、いや唯其の目標のみの為に学にいそしんだといふ事になる。或る地位を得る事のみを唯一の目標として学問するのは現代の一大通弊であるが、四十二歳まで独身で学究生活を続けてきたといふ氏にして尚この事あるは甚だ意外とする所で、新聞にある様に篤学の名を許すべきではない。

何の為に学問をするかについて、もつと確固たる考へを持ちたいものである。この確固たる考へが一般にゆき渡りさへすれば、我々国文化の向上はいふまでもなく、入学難も、知識階級の就職難も等しく緩和されよう。

(昭和二年八月号)

【自ら墓穴を掘るもの】

小学校長の内申は最も情実に左右され易きものなるが故に、之に依つて入学の許否を決定せんとするのは極めて危険である。

曩(さき)に入学試験改善案の發表せらるゝや、最も多くの人によつて、又最も力強く主張された非難は之であつた。かくて其の結果は、小学校長の凡てが情実によつて左右せられるものとの觀念を、一般世人に印象させる事になつたのである。これ初等教育に對する一大汚辱でなくて何であるう。

教育界以外の人々がかゝる避難を加へるのはまだ我慢も出来る。苟も教育者自身が、同様の非難を口にして毫も怪しまざるは、其の心事を了解するに苦しまざるを得ない。徒に世論に付和雷同せるものか、それともかゝる事実の存在を信じて非難するのか。若し後者なりとせば、寧ろかゝる非難の加へらるゝを一大恥辱として、其の根絶に渾身の勇を振るふべきではないか。

何れにもせよ、自らかゝる非難を取立てするは自ら面上に唾するものであり、自ら墓穴を掘る者である。

(昭和二年十月号)

【一貫の道】

旧臘初等教育部門主催の国語講習会に於ける芦田講師の講演は、其の一語一語がひしひしと心に喰ひ入るの感があつた。聴者の心に肉迫する一語一語のあの力は何処から来るのだろうか。勿論力強い物の言ひ方にもよるのだからが、私はそこに三十年間一貫した道を傍目もふらずに精進し來つた人のみの持つ力を、それから尊さを感じた。

芭蕉は四十幾年の生涯を回顧して「爰の小文」にいつてゐる。「……かれ狂句を好む事久し。終に生涯のはかりごと、す。或る時は進んで人に勝たむ事をほこり、是非胸中にたゝかうて是が為に身安からず、しばらく身を立てむ事をねがへども、これがためにさへられ、暫学んで愚を曉らん事を思へども、是が為に破られ、終に無芸無能にして只此の一筋につながると。而して「無芸無能にして只此の一筋につながる。」と悟つてから、芭蕉の俳諧はまさに、一進境を示したのである。

「十年一日」といふ語がある。然ししう事なしの十年一日や、情勢で生きた十年一日や、左顧右

眊の十年一日ではなんの役にも立たなぬ。これに反し若し一大勇猛心を以て精勵するならば、たとへ其の業務は猫の目の様に毎日変わった所で、十年の月日は其の人を鍊磨してくれる。況んや一貫の道に精進する事、十年二十年三十年に及べる人は確固不動の渾然たる人格が出来上がり、其の一言はよく人の肺腑を貫くに至るであらう。若し「無芸無能にして只此の一筋につながる」と真に悟つて、人の子を教ふる事に精進する事十年二十年なる人があるならば、これこそ本當の教育者といふべきであらう。(昭和三年一月号)

祝・叙勲

(平成二十六年四月二十九日)

☆瑞宝双光賞
教育功勞

上田 弘 殿

大洲市若宮六九六一九
昭四十二年 卒

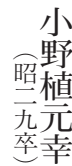
兵頭 竜郎 殿

宇和島市三間町浪岡六八〇
昭四十一年 卒

松永 峰一 殿

伊予市稻荷九六五
昭四十二年 卒

会員の声



当日の三日前、六年生（六十
七名）担任、校長先生と内容、資料
準備物、時間等を打ち合わせした。
事前に、授業内容のプリントを
全児童に配布「家庭学習」をして
親と語り合うことを依頼した。

当日、六十分授業として、プリントの要項にしたがって、板書、世界地図、資料を使って進めるも話すことが多く設定の時間より十五分オーバーするも、児童は静かに聞きメモしてくれた。

学芸会で、十一月二十四日「平和への願い―ヒロシマ」案内があり参観した。

広島原爆投下で死都化した荒野を見て「あやまった道は歩まない。戦争の恐ろしさ」を思う。

終演後「ありがとう。」と児童と共に握手、握手の連発に、至福の一日となった。

校長先生に「台本、資料、ビデオ等」残して次代の子供に伝えてほしいと願った。

天皇陛下の昨年十二月二十三日誕生日に、八十年間の生活で最も印象に残ることとして、先の戦争を挙げられ「前途にさまざまな夢を持っていた、多くの人々が若くして命を失ったと思うと本当に痛ましい。」と述べられた。

戦時中は、天皇を「現人神」として、神格化して「なにごととも天皇のための軍事教育」より、憲法改正で「人間天皇」にかえられ、国民に対する心に打たれた。

天皇陛下は、私と同じ年、戦時中の体験者と語られ、年々風化しつつある戦争の恐ろしさを後世に伝える義務があると、出前授業をして実感している。世界が一つと願いながら……

791-3351
喜多郡内子町五百木

一五四)

召集令状



教育現場等で、同窓会へ支援のご要望がありましたら、左記のような内容で、同窓会へご連絡下さい。

1. 支援要請のねらい
 2. どのような事を
 3. 何時頃
 4. 何処で
 5. 誰が、どのような組織が
 6. どのような方法で実施する
- その為、同窓会からの支援を要請したい。

要請連絡は、左記の所にメールして頂くか、FAX又はお手紙をお送り下さい。

教育学部同窓会
インターネット
開設しています！

メールアドレスは上記

お問い合わせ、会報への寄稿、住所、勤務先変更などの諸連絡にご利用ください。お待ちしております。

第一回の卒業生から



松田 建雄
(昭二八卒)
四年課程初等科

愛大、教育学部同窓会の皆さん、お元気ですか。今回は、私が教員を始めてから六十年間の軌跡をたどってみました。

まず、私は昭和五年（一九三〇）伊予市に出生しました。そして、昭和二十八年には地元の愛大教育学部を卒業し、四月から新居浜市にあった別子学園東平中学校の教員となり、昭和三十一年から五年間は東平小学校に勤務しました。

昭和三十六年になって、学校が住友の私立から公立学校へ移管され、私だけが新居浜市立多喜浜中学校へ転勤を命ぜられました。

この間、結婚もして長女が生まれ、昭和三十六年には次女も生まれました。



昭和四十年の異動では、伊予郡の上灘中学校へ転勤、その後、松前、港南、岡田、中山、再び港南の各中学校を歴任しました。そして、平成三年の三月には三十八年間の教職生活を定年退職しました。

退職の後は、地元の広報委員、評議員、伊予市文化協会、歴史文化の会、歩こう会等の役員を務め、趣味としては伊予短歌会、囲碁クラブ、ふるさと案内人としてのお世話もしながら、家庭菜園、釣り、日曜大工、わら、竹細工、写真ビデオ、旅行、書道等多岐にわたりました。一方、親孝行、兄弟、孫の面倒をみることも忘れませんでした。

生活信条としては、報恩・感謝の生活を心掛けていたことです。

（近詠十首）

教職に生涯をかけ燃へ尽くし
平成の世に定年退職

教へ子と共に過ごせし学舎も
廃墟と化せり別子銅山

年の瀬に講堂に集へる若きらに
しめ縄作り手はどくわれば

鶯の啼き交ふ溪にわれ一人
木洩れ日浴びつ山菜を摘む

幼な日に友と戯れし川に入り
泥鰌を餌に鰻を捕ふ

来る年の幸を祈りて
手すさびの門松作り知人に贈る

遠き日に祖母に習ひし竹皮ざうり
今は手はどく若き集ひに

伊予地区の五十余名の古老らと
一堂に座して烏鶯の争ひ

放射線室の最新鋭なる医療機器に
目を見張りつつ治療を受ける

教職を退きて早くも四半世紀
人のお世話もままならぬわれ

799-3113 伊予市米湊八八一

放送大学入学生募集のお知らせ

の取得が可能です。

○ 放送大学の科目を利用して、**司書教諭資格**の取得が可能です。

○ 放送大学の講習を受講して、**教員免許更新**が可能です。

資料を無料でさし上げております。お気軽に、**愛媛学習センター**にご請求ください。

放送大学は、テレビなどの放送を利用して自宅で学べる通信制の大学です。

放送大学では、心理学・福祉・文学など、幅広い分野を学べますが、同窓会員特に現職の方々は、次に掲げる教育関係の免許資格取得などができます。

○ 放送大学の大学院を利用して、**専修免許状**の取得が可能です。

○ 放送大学の科目を利用して、**特別支援学校教諭免許状**

放送大学

教育に関連する科目を多数開講しています
一科目からでも学べます

平成26年度10月入学生募集
(平成26年8月31日まで)

愛媛学習センター
(愛媛大学内)
TEL 089-923-8544

同期会

昭和三十三年卒業生

同期会

村上 嘉一

(昭三三卒)

平成二十五(二〇一三)年十一月三十日(土)、松山市道後姫塚の「にぎたつ会館」において、昭和三十三年(一九五八)年三月に教育学部四年課程を卒業した同期生の会が開かれた。

卒業後、はやくも半世紀をこえる年月が過ぎ去った。正に「歳月人を待たず」である。

資料では、同期生(四年課程中等科・初等科卒業生)の総数は百五十三名であった。今回はそのうち二十八名が参集した。

この会は初回を同期生・長岡さんが発起・世話をして、松山で開かれ、現在に至った。その後、ほぼ年に一回のペースで、会場・事務局を東予・中予・南予・県外の岡山……へ移して開かれ、早くも



十三回目迎えた。

当日の受付は、一柳さんと赤星さんが担当、印刷物・名札の配布・会費集めなどを行った。座席は柏井さんと赤星さんが作った美しい折り紙のウマ(新年の干支)とツルの箸置きの色合わせ抽選紙で決められた。



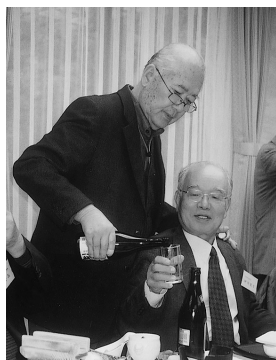
昭和 33 年卒業生同期会 (平成 25 年 11 月 30 日)

宴会開会に先立って、全員で今はなき友へ黙とうし冥福をお祈りした。

開会にあたり、大倉さんが会の世話人代表で挨拶をした。この会の開催に向けて、永井さんが準備万端整えてくれて開会できたこと、県内外の各地から松山へ参集下さった出席者へのお礼、この貴重な機会に大いにお互いの昔日・現在・未来を語り合ひましよう……と。

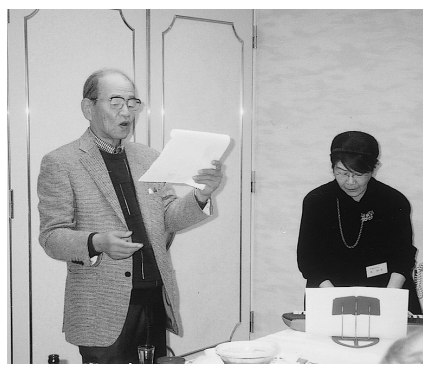
乾杯の音頭は、広島県から遠路参加下さった神頃さんの発声に全員が唱和した。

宴たけなわとなり、あちこちのテーブルで歓談の輪が広がり大いに盛り上がった。参加者全員の「近況報告」では、各自のカラフル人生の現況が語られた。



(工藤保さん撮影)

宴が盛り上がったところで、現在も合唱団の指導などで生き生きと日々活動している泉さんがキーボード演奏でリードして、



(工藤保さん撮影)

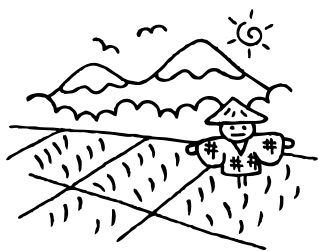
「愛媛大学学歌」(井出淳二郎作詞、下総皖一作曲、昭和三十一年)「伊予の高嶺の尾根にそひ……」と、懐かしい文部省唱歌「ふるさと」を元氣一杯大合唱した。

次回の会は南予地区の担当が順番である。佐々木さんを始めとする南予地区の出席者は諸々の条件を勘案して、松山市の「にぎたつ会館」を会場とする希望であった。同期会開催・運営は南予地区の会員が行うが、事務局の仕事は松山の永井さんがお手伝いすることで了解された。

お開きとなった。南予から出席した佐々木さんの発声で、一同の健康と多幸・同期会の益々の発展を祈念し、再会を誓いつつ、万歳三唱をした。

『欠席者からのメッセージ』が四十九通届いた。「自然に囲まれて元気に暮らしています」、「県展も出品しております。鑑賞に行ってください」、「関東・関西に向向いています。都会の空気を楽しみにして」など元氣便りに加えて、二十一通は何らかの体調不良に関するものであった。

皆さんの健康回復を祈り、元氣で再会できる日が近いことを期待しつつ散会となった。



愛師昭二十二年卒

東京同期会

平成二十五年十二月の会



武田 敏文
(昭二二卒)

バスと電車がうまく乗り継ぎで
さず遅刻したお詫びに、私が当日
の報告を書くことにしました。

谷口敬さんと武田が幹事をし
て、新橋の「香り媛」で愛媛なか
よし会をやりましたが、集まりが
少なかつたので、谷口さんが改め
て案内状を出して下さって、平成
二十五年十二月十五日(日)に、
上野の「鮎忠」で愛師昭二十二年
東京同期会を開きました。

井原茂幸さんは、小金井で開い
た絵画と陶器の回顧展の様子を詳
しく話してくれました。私達は作
品のできればに感心して、記念に
絵をいただきましたが、終わった

後、陶器など千葉県南端の制作場
所に送るのに美術品輸送の特別な
方法で送ったそうです。

今年も参加してもらった久保田
仁郎さんは、はるばる愛媛から自
宅の畑で作った自慢の「キウイ」

をたくさん持ってきておみやげに
いただきました。「キウイ」は葡
萄のような棚で作るそうです。帰

りは東京のお孫さんの家に泊まる
ので、車で迎えに来てくれました。

玉田泰太郎さんの奥様の玉田龍
子さんは、愛媛の泰太郎さんの実
家の世話を中止して駆けつけてく
れました。龍子さんは私達より愛



媛によく行っています。当日は、
谷口さんと二人で、専ら鍋料理の
世話をしてくれました。

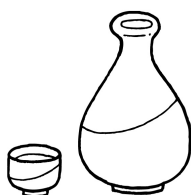
食べきれなかった料理はお土産
の形で作ってくれました。

高橋立身・藤本正義・徳田實三
郎さんたちが、足が痛くなつて出
席できなくて残念でした。

豊嶋睦さんが亡くなった速報を
載せた東京同期会の名簿を配つて
お互い体に気をつけてがんばろう
と励まし合い、散会しました。

331-0063

さいたま市西区
プラザ八一(四)



第5回 愛媛大学ホームカミングディ開催のお知らせ

◆ 日時 平成26年11月8日(土)

- ・13時～ 同時開催イベント(ミュージアム見学、植物工場見学など)
- ・15時～ 式典(南加記念ホール)
講演者: 村上恭通 愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター長
- ・17時～ 懇親会(大学会館1階)

※ 当日、学部・学科・サークル等ミニ同窓会(10人以上)の開催を応援します!
(実施経費1人あたり2,000円を援助します。上限60,000円)
また、お越しいただいた節目の卒業生の皆様にプレゼントを差し上げます。
条件や申請書など詳しいことは決まり次第愛媛大学HP、愛媛大学校友会
HPに掲載いたします。

卒業生ならどなたでも参加可能です。皆さまのご参加をお待ちしてお
ります。



《お問い合わせ》

愛媛大学総務部総務課総務・法規チーム
電話: 089-927-9016 FAX: 089-927-9025
メール: soumu@stu.ehime-u.ac.jp

愛媛大学HP <http://www.ehime-u.ac.jp/>
校友会 HP <http://koyu.ehime-u.jp/>

教育学部が今治市教育委員会と連携協力事業の調印を行いました【4月15日（火）】

平成26年4月15日（火）、教育学部が、今治市教育委員会の高橋実樹教育長を迎え、同委員会との平成26年度の連携協力事業の調印を行いました。

教育学部はこれまで、愛媛県教育委員会、松山市教育委員会、今治市教育委員会、伊予市教育委員会、松前町教育委員会、東温市教育委員会、愛南町教育委員会とそれぞれ連携協力の覚書を交わし、その活動を通して、教育研究、教員研修、教員養成について多くの成果を挙げてきました。



握手を交わす三浦教育学部長と
今治市教育委員会高橋教育長

今治市教育委員会とは、平成15年の覚書の調印以来、継続的に共同研究を行っており、『研究報告書』（愛媛大学教育学部・今治市教育研究所）の形でその成果をまとめています。今年度は、昨年度に引き続き、

「確かな学びを保障するカリキュラムの開発と授業の創造」というテーマで研究を推進することとしました。その趣旨は、「教育現場の諸問題の解決のために、理論と実践の一体化による研究を推進するとともに、教師の創意工夫を生かした授業を創造し、児童生徒に多様で確かな学力を身につけさせる」というものです。

教育現場の具体に即した継続的な研究の成果が期待されます。

* — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

教育学部留学生歓迎会を開催しました【4月25日（金）】

平成26年4月25日（金）、校友会館2階「サロン」で、教育学部留学生歓迎会（前学期）を開催しました。

今年度4月から新たに2人の留学生を迎え、本学部には現在7人の留学生が在籍しています。歓迎会には、留学生、教育学部長、指導教員、国際交流委員会委員、留学生チューター、事務職員などが一同に集いました。

国際交流委員会の隅田学准教授の司会のもと、三浦和尚教育学部長の歓迎挨拶や委員会メンバーの自己紹介がありました。その後、留学生が紹介され、それぞれ自己紹介を行いました。

和やかな雰囲気の中、留学生、チューターの学生さん達はお互いに自己紹介をしたり、記念撮影などをして交友を深めていました。



留学生挨拶



全員で記念撮影

教育学部の安積京子講師がドイツの有名ヴァイオリニストと 共演しました【4月7日（月）】



平成26年4月7日（月）、教育学部音楽教育講座安積京子講師が、NPO法人アン・デイ・ムジーク愛媛主催のデュオリサイタル『ドイツロマンが香り立つデュオの調べ』で、ドイツの有名ヴァイオリニストと共演しました。

ドイツから招待したヴァイオリニストのツオルニツァ・バハロヴァさんは、5歳よりヴァイオリンを始め、9歳でデビューし、数多くの国際コンクールで入賞しており、カーネギー・ホールやロイヤル・アルバートホール等の世界的に有名なコンサートホールで演奏する一流のヴァイオリニストです。2013年にはニュルンベルク・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートミストレスに就任されました。

安積講師とバハロヴァさんは、2004年、2005年にドイツ国立ワイマール・フランツ・リスト音楽大学で共に学んだ学友です。当時は、ドイツやチェコでコンサートツアーを行うなど数多くの共演を重ねましたが、卒業後にバハロヴァさんはニューヨークのジュリアード音楽院に進学し、安積講師はドイツ国立ミュンヘン音楽・演劇大学大学院へ進みました。

9年ぶりの共演となった今回は、3月21日にドイツ・ミュンヘン市（ルービンシュタインホール）、4月3日に大阪市（帝国ホテル大阪）、4月7日に松山市（いよてつ高島屋9Fローズホール）の3都市にてデュオリサイタルを開催しました。

松山市のコンサートでは、ドイツの作曲家、ベートーヴェンとブラームスのピアノとヴァイオリンのためのソナタの他、親しみのある作品、エルガー作曲「愛の挨拶」、サラサーテ作曲「ツィゴイネルワイゼン」、マスネ作曲「タイスの瞑想曲」を演奏しました。見事に息の合った素晴らしい演奏を披露し、美しい音色で観客を魅了しました。

また、コンサート後に行った打ち上げパーティーには、教育学部 音楽文化コースの学生5人と大学院生1人も参加しました。学生達はバハロヴァさんに、1年間講義で学んだドイツ語で自己紹介をし、安積講師の通訳で音楽の勉強の仕方やドイツの文化について質問し、プロの音楽家と貴重な国際交流を体験しました。

【安積京子オフィシャルウェブサイト】(<http://www.kyoko-asaka.com/>)



松山市・ローズホールの演奏会風景

教育学研究科と教育学部の学生グループが私立久枝幼稚園で 藍の絞り染めを行いました【5月8日（木）】

平成26年5月8日（木）、愛大GP「伝統の継承プログラムを通したグローバルマインドの育成」事業として、教育学研究科1年の和田敬行さんをリーダーとする学生グループ8人が、私立久枝幼稚園で年長組78人の園児と藍の絞り染めを使って、父の日のプレゼント制作を行いました。

本事業は、本学が支援する教育改革促進事業（愛媛大学GP）で、昨年度に続き今年度も採択されたものです。忘れられようとしている地域の伝統を復権する作業を通して、自らの来歴を知り、伝統に立脚した人格を育成して、世界に通じるグローバルマインドを持つ人材を育成することを目的としています。

愛媛県の伝統の織物に「伊予絣」があります。伊予絣は、藍染めを用いた織物で、明治36年には絣の全国生産量1位になり、愛媛県は伊予絣を通じて全国に知られていました。しかし現在、愛媛県を含む四国で藍染めは衰退しており、藍染めを知らない子どもたちが増えています。そこで、本事業では、伝統の継承プログラムを通じて、地域の一員として自覚と誇りを持って行動し、目的達成のために多様な人と協働する、グローバルマインドをもった次世代を担うリーダーとなる人材を育成することを計画しました。

本実施は、今年3月6日（木）に行われた松山市立久枝小学校での1/2成人式の記念品制作の報道で、本事業を知った久枝幼稚園の芳之内園長からの依頼で行ったものです。久枝幼稚園では初めての藍染め実施となるため、事前に学生グループと幼稚園の先生方が話し合いを行い、絞り染めの実施になりました。絞り染めは伝統的な藍染めの技法で、藍染めすると幾何学模様が浮かび上がります。この模様を出すために、実施日までに園児たちは、先生方と一緒に父の日のプレゼント用の木綿ハンカチを輪ゴムを使って括っておく作業を行いました。

当日は、学生統括リーダーの本学教育学研究科1年の和田敬行さん、教育学部4年生の中内悠久哉さん（理科教育）、中野徹さん（理科教育）、渡部歩美さん（美術教育）、前田莉菜さん（生活環境コース）、宮さゆりさん（生活環境コース）、2年生の西本奈々さん（生活環境コース）、山本風沙さん（生活環境コース）の8人が、園長先生をはじめとした幼稚園の先生方と協働して実施し、園児たちは安全かつ楽しく藍染めを行うことができました。がんばって括った輪ゴムを外すのにやや苦戦しましたが、園児たちは染める液は黒色、染めた直後のハンカチは緑色、時間が経つと青から藍色に変化する様子に感動していました。

本事業を通じて、学生は、目的達成のために地域の方と協働しながら実践を行い、地域の一員として自覚と誇りを得ました。また、多くの人との触れ合いを通して、グローバル化やグローバルマインドについて大きな知見を得ることができました。

なお、この活動は、愛媛新聞、愛媛朝日放送、南海放送で報道されました。

今回は5月26日（月）、認定こども園潮見幼稚園で藍の抜き染めを行う予定です。



実施風景（誰から入れる？ はーい！）



実施風景（できたぞ！）

平成26年度

支 部 長 会 報 告

1. 日 時 平成26年 6 月 7 日（土） 10：30～14：00

2. 場 所 愛媛大学会館（松山市文京町3）2F 大会議室

3. 日 程 (1) 開 会 挨拶 会長・学部長

(2) 各支部長 挨拶

(3) 議長選出

(4) 議 事

ア 会則改正について

イ 役員改選に関する件

★ 新旧役員挨拶

ウ 平成25年度行事報告

エ 平成25年度決算報告・監査報告

オ 平成26年度行事計画

カ 平成26年度予算案審議

キ 支部活動と助成金について

ク その他事務連絡

(内規に関する事項・会報発送・会館利・名簿 等)

(5) 閉 会 挨拶 副会長



4. 主な話し合い事項

(1) 支部活動の活性化について

各支部長に前もって依頼していたアンケート等による提言を元に、支部活動をいかに活性化するかについて時間を掛けて話し合われた。昨年度は南宇和支部、伊予支部で「落語文化の普及を図る」のかけ声の下、地域の方々と協力し、古今亭菊志ん師匠をお招きし、大変盛会だったので、その経過報告を松本支部長にいただいた。

このように各支部とも予算が位置づけられているので、積極的な活動を公民館等と協力して計画してみてもとの提言があった。



(2) 教育学部と同窓会との連携活動について

昨年度より予算にも位置づけ、教育学部では「サポーター制度」を設け、同窓生に働きかけ、講師になってもらい「コミュニケーション能力の育成」をテーマに、学生達に講演している。その活動の様子報告は会報を通じて行っている。非常に学生に好評であり、今後とも学部と同窓会との絆を強めるため同窓会は協力をしようと意志決定した。



(3) 「支部活動特別助成金」について

支部活動をより活性化するための具体的な方策として、上記にある「支部活動特別助成」を配慮している。その為の資料として、「支部活動特別助成金交付要綱」と「申請手続き」を紹介した。

(4) 県外支部長の参加があった

岡山支部・神崎順治副会長の参加があり、挨拶をして頂き、県外支部活動の現状と要望を話していただいた。



(5) 今年度新しく、4人の新理事をお迎えした。理事選出も東・南予からも、もう少し多く選出してはとの意見があった。

(6) 来る愛媛国体に備え、同窓会としてもどうサポートするか考えてほしいとの提案があった。

以上

平成25年度 行 事 報 告

平成26年度 行 事 計 画

4. 8 (月)	平成25年度入学式	学部生 240名 院生 50名
4. 15 (月)	平成24年度会計監査	監査実施
5. 11 (土)	第1回常任理事会	役員改選・同窓会活動・支部活動について
5. 25 (土)	第1回理事会	平成24年度行事、決算報告 平成25年度行事計画及び予算審議 役員改選案について審議
6. 6 (木)	学部サポーター制による講義	浜田純子氏「魅力的な大人のマナー講座」
6. 8 (土)	支部長会	平成25年度本部役員改選 平成24年度行事、決算報告 平成25年度行事計画及び予算審議
6. 12 (水)	第1回編集委員会	会報116号 校正
7. 1 (月)	会報116号発行	8,800部
9. 6 (金)	第2回常任理事会	後期同窓会活動・支部活動について
9. 28 (土)	支部活動支援・援助	伊予支部 菊志ん師匠の「落語文化口演会」
10. 12 (土)	支部活動支援・援助	南宇和支部 菊志ん師匠の「落語文化口演会」
11. 9 (土)	愛媛大学ホームカミングデー	教育学部同窓会参加
12. 5 (木)	学部サポーター制による講義	講演「話し方講座」合田みゆき氏
12. 26 (木)	第2回編集委員会	会報117号 校正
1. 6 (月)	第2回理事会	年間行事の反省 新年度諸計画について
2. 1 (金)	会報117号発行	8,500部
2. 27 (木)	学部サポーター制による講義	講演「魅力的な話し方講座」加藤富子氏
3. 4 (火)	第3回常任理事会	25年度行事活動反省、次年度重点活動目標設定について
3. 24 (月)	平成25年度卒業式	卒業者学部生 236名 院生 50名

4. 7 (月)	平成26年度入学式	学部生 232名 院生 47名
4. 14 (月)	平成25年度会計監査	監査実施
5. 12 (月)	第1回常任理事会	役員改選・同窓会活動・支部活動について
5. 24 (土)	第1回理事会	平成25年度行事、決算報告 平成26年度行事計画及び予算審議 役員改選案について審議
5. 31 (土)	同窓会懇親会世話人会	各期代表世話人による懇親会運営話し合い
6. ()	学部サポーター制による講義	浜田純子氏「魅力的な大人のマナー講座」
6. 7 (土)	支部長会	平成26年度本部役員改選 平成25年度行事、決算報告 平成26年度行事計画及び予算審議
6. 11 (水)	第1回編集委員会	会報118号 校正
7. 1 (火)	同窓会報118号発行	8,500部
7. 28 (月)	第2回常任理事会	同窓会懇親会運営推進対策について
8. 8 (金)	第2回理事会	同窓会懇親会運営推進対策について
8. 23 (土)	第14回教育学部同窓会懇親会	松山全日空ホテル南館4Fエメラルド
9. 5 (金)	第3回常任理事会	懇親会反省報告、後期諸計画、次年度活動について
11. 8 (土)	第5回愛媛大学ホームカミングデー	教育学部同窓会参加
11. ()	学部サポーター制による講義	
12. 6 (土)	第4回常任理事会	後期の諸計画・次年度諸活動について
12. 26 (金)	第2回編集委員会	会報119号 校正
1. 6 (火)	第3回理事会	年間行事の反省 新年度諸計画について
2. 2 (月)	会報119号発行	8,500部
3. 2 (月)	第4回常任理事会	26年度行事活動反省、次年度重点活動目標設定について
3. 24 (火)	平成26年度卒業式	卒業者学部生 名 院生 名

平成25年度 決 算 書

(収入の部)

(単位：円)

費 目	本年度予算	決 算	増 減	摘 要
1. 会 費	5,100,000	5,080,000	△ 20,000	入学者 254名 @20,000
2. 寄 付	245,000	220,874	△ 24,126	寄付金等
3. 雑 収 入	5,000	3,419	△ 1,581	利息等
4. 繰 越 金	2,776,980	2,776,980	0	
計	8,126,980	8,081,273	△ 45,707	

(支出の部)

費 目	本年度予算	決 算	増 減	摘 要
1. 会 議 費	650,000	287,495	362,505	支部長会・理事会
2. 旅 費	600,000	325,800	274,200	支部長会・理事会
3. 印 刷 費	1,650,000	1,095,000	555,000	会報2回 (カラー印刷)
4. 通 信 費	450,000	350,793	99,207	会報発送、連絡費
5. 慶 弔 費	200,000	40,000	160,000	
6. 給 与 費	800,000	800,000	0	
7. 備 品 費	450,000	377,370	72,630	P C・プリンター機器
8. 消耗品費	300,000	51,633	248,367	封筒、ラベル・コピー代等
9. 支部助成費	500,000	489,600	10,400	
10. 卒業記念費	460,000	411,075	48,925	電波時計付フォトスタンド
11. 国際交流基金	250,000	250,000	0	
12. 支部活動支援費	550,000	218,442	331,558	芸能・文化支援
13. 学部活動支援費	500,000	389,788	110,212	学部サポーター活動支援等
14. 積 立 費	400,000	500,000	△ 100,000	
15. 雑 費	210,000	66,515	143,485	
16. 予 備 費	156,980	0	156,980	
計	8,126,980	5,653,511	2,473,469	

平成26年度 予 算 書

(収入の部)

(単位：円)

費 目	本年度	前年度	増 減	摘 要
1. 会 費	5,100,000	5,100,000	0	入学者 (240名+15名) @20,000
2. 寄 付	200,000	245,000	△ 45,000	寄附金等
3. 雑 収 入	4,000	5,000	△ 1,000	利息等
4. 繰 越 金	2427762	2776980	△ 349,218	
計	7731762	8126980	△ 395,218	

(支出の部)

費 目	本年度	前年度	増 減	摘 要
1. 会 議 費	650,000	650,000	0	支部長会・理事会
2. 旅 費	700,000	600,000	100,000	支部長会・理事会
3. 印 刷 費	1,550,000	1,650,000	△ 100,000	会報2回 (カラー印刷)
4. 通 信 費	450,000	450,000	0	会報発送、連絡費
5. 慶 弔 費	150,000	200,000	△ 50,000	
6. 給 与 費	800,000	800,000	0	
7. 備 品 費	350,000	450,000	△ 100,000	P C・プリンター機器
8. 消耗品費	200,000	300,000	△ 100,000	封筒、ラベル・コピー代等
9. 支部助成費	500,000	500,000	0	
10. 卒業記念費	460,000	460,000	0	電波時計付フォトスタンド
11. 国際交流基金	250,000	250,000	0	
12. 支部活動支援費	550,000	550,000	0	芸能・文化支援
13. 学部活動支援費	500,000	500,000	0	学部サポーター活動支援等
14. 積 立 費	400,000	400,000	0	
15. 雑 費	150,000	210,000	△ 60,000	
16. 予 備 費	71,762	156,980	△ 85,218	
計	7,731,762	8,126,980	△ 395,218	

平成 26 年度 役 員 表

愛媛大学教育学部同窓会

本	顧 問	三 浦 和 尚・奥 定 一 孝		監 事	矢 野 裕 司		常任幹事	菅 田 顕
	会 長	高 橋 治 郎			相 原 孝 裕			
部	副 会 長	立 入 哉	峯 本 高 義	村 上 朋 子	友 近 温 壽	山 本 千 鶴子		
	理 事	山 本 周 三	長 野 照 道	山 下 雅 司	菊 川 國 夫	満 田 泰 三		
		村 上 嘉 一	鎌 田 サチ子	和 田 和 子	阿 部 晋	替 地 和 人		
		井 出 節 雄	後 藤 陽 三	垂 水 葉 子	斉 藤 照 夫	辻 井 芽美子		
		白 石 久美子	中 村 真紀子	井 上 真佐子	菅 洋 二	白 石 貴 士		
		藤 家 慎 吾	清 水 美智子	赤 松 彩 子				

県内支部	支部名		支部長		副支部長		副支部長	
	四国中央市	川之江新宮	吉田 太	川之江北中	松本健吉	妻鳥小	高木 淳	新宮小
		伊予三島	品川弘樹	豊岡小	野村 浩	松柏小	武田明敏	寒川小
		土居	鈴木恵子	長津小	高橋和紀	関川小	山川小百合	土居小
	新居浜		佐々木篤志	新居浜東中	中野 久	若宮小	高橋美鈴	惣開小
	西条		伊藤 俊	西条西中	曾我部 研二	橘 小	越智恵里子	氷見小
	東予・周桑		磯 明	小松幼	青野信樹	西条小		
	今治		高橋隆司	城東小	高井 剛	美須賀小	井原 渉	乃万小
	今治・越智		橋本直行	岩城小	菅 昭彦	亀岡小	長島章子	生名小
	松山・北条		佐藤敦子	立岩小	奥村幸二	難波小		
	松山		矢野裕司	和気小	城本すみ江	高浜小	森 健	椿 中
	東温		篠崎邦裕	拝志小	高須賀秀喜	北吉井小	今西俊介	西谷小
	伊予		山田智香子	北山崎小	田中 弘	砥部中	辻井芽美子	麻生小
	上浮穴		鵜久森 克	直瀬小	段王繁嘉	面河小	森 美由紀	仕七川小
	大洲		岡田廣温	大洲小	横田 宏	喜多小	餘家幹子	三善小
	喜多		谷口利光	小田中	福原浩一	大瀬小	清水輝昭	小田小
	八幡浜		大西逸子	神山小	道岡喜好	川之石小	二宮あさみ	真穴小
	西宇和		辰野晴美	水ヶ浦小	音地淳市	九町小	尾上利治	伊方中
	西予		兵頭茂博	中川小	三浦倉充	狩江小	井上 健	遊子川小
	宇和島		石丸光計	高光小	都築高秀	天神小	木下 芳	御模小
	北宇和		西村久仁夫	日吉中	小川俊一	日吉中	河野こずえ	近永小
	南宇和		松本清隆	篠山小	松廣 歩	柏 小	清水二十志	城辺小
	附属		武田恵奈	附特別支援				

県外支部	東京	兼頭吉市	森 孝枝	
	京都	河野直樹		
	大阪	神垣鉄雄	本宮 久	杉山容子
	神戸	木原孝造	平山 昇	加登康智
	岡山	岡田 潤	神崎順治	

編集委員	菅田 顯	峯本高義	菊川國夫	村上朋子	山下雅司
------	------	------	------	------	------

会報送料・寄付者名

平成26年2月～5月



敬弔

（物故会員）

池田辰夫	鈴木俊子	高橋久枝	大林トシ子	宇野美代子	澤原捷三	三好美子	山内富士男	渡邊貴子	藥師神勝範	今村伊平	大井弘子	茅田耕作	岩井正浩	越智艷枝	芝令香	森下史朗	加州廣美	石川律子	毛利道子	久保木キヌ子	藤田敏	首藤カズミ	佐伯勇	柳田公俊	伊藤和夫	正岡和代	伏見ヨシ子	村上總子	池添貴子	桐山幸	島津幸	
神野茂子	岩本郁夫	佐伯やよい	河崎富枝	武智キクエ	真鍋富子	村上慧美	合田宏明	藤原幸子	權田一瑛	三池恒雄	永井政士	鴻上又夫	西川森文	佐伯郁太	河野藤縁	近藤求	近野英	河野英	羽浦信	羽浦信	岡本清弘	村井タツ子	杉原好郎	本宮優美	村田英子	横田茂夫	宮崎有子	松本茂子	豐田卓	片山正弘	藥師神	井上弘
高市節昭	井出昌雄	合田惇文	井上勝美	井岡忠信	松藤成子	加藤秀實	寺川フミ子	白石光博	山本カズ子	大城易丈	徳永規久	青井正史	青宮森一	本林幾子	浅井里美	真鍋聖	矢野敬	真鍋敬	川端潤	大森恵美	清水道明	竹崎光昭	横手美昭	戒能美直子	宇都宮年男	大塚美和子	直野クニ子	山本美代子	八塚美子	石丸志都子	井原常子	

平成26年2月15日

[illegible]

愛媛大学と山形大学合同 第4回卒業・修了合同美術展覧会を開催しました

愛媛大学と山形大学で「第4回卒業・修了合同美術展覧会」をサテライトオフィス東京にて開催しました。

【展覧会概要】

- 会場：サテライトオフィス東京（東京都港区芝浦3-3-6キャンパス・イノベーションセンター）
- 参加者：28名（愛媛大学8名、山形大学20名）
- 開催期間：2014年2月28日（金）～3月5日（水）
 - 2月28日：搬入・設置、ギャラリートーク、交流会
 - 3月1日：オープニングセレモニー



ギャラリートークの様子



交流会の様子



オープニングセレモニーの様子



学生Aの作品



学生Bの作品



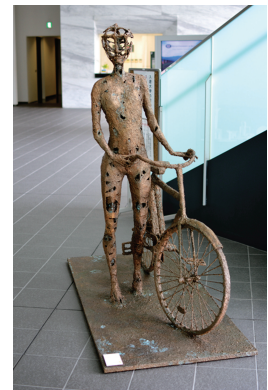
学生Cの作品



学生Dの作品



学生Eの作品



学生Fの作品

【展覧会を終えて】

サテライトオフィス東京で開催された本展覧会も今年で4回目を迎えることができました。愛媛大学からは教育学部芸術文化課程造形芸術コースの8名（内2名は作品のみ）の参加がありました。本展覧会は学生にとって、他大学の学生との交流を通して、自身の卒業研究を自己評価する大切な機会となります。今年度も学生が主体的に山形大学の学生と連絡を取り、積極的に運営に携わる姿をみることができました。学生の感想に、「展示に関しては山形大学にまかせきりになってしまったので、愛媛大学の方でもっとやれることをもっと増やした方がよいのではないかと感じました。」とあるように、ただ作品を出品するだけでなく、作品展をつくりあげようという学生の意識の高まりを感じることができました。これは「合同」で展覧会を行っているという学生自身の自覚のあらわれと考えることもできます。

今後は第5回の開催に向けて、卒業研究に対する取り組みだけでなく、本展覧会を山形大学の学生とともにつくりあげようという学生の意志や取り組みを支援していきたいと思います。最後になりましたが、本展覧会を開催するにあたりご尽力を頂いた横田勝氏や菅田顕氏をはじめ、関係者の方々にこの場を借りてお礼申し上げます。